大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

9

２００５年11月

大阪府教育委員会

はじめに

今年の6月に陶邑窯跡群出土の須恵器2,585点が国の重要文化財に指定されました。昭和30年代から40年代にかけての泉北ニュータウンの開発に伴って大々的に実施した須恵器窯の発掘調査は、多大な成果をあげました。

今回の指定は陶邑窯跡群出土の須恵器が、わが国の『須恵器研究の基礎』となる資料として評価されたものです。

埋蔵文化財の発掘調査から遺物整理、報告書の刊行、出土遺物の展示、公開、普及啓発活動、資料の管理などの一連の作業は、いずれも地道なものですが、文化財の保護に欠くことのできない重要なものです。

『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』の刊行も、大阪府教育委員会が実施した埋蔵文化財の発掘調査や普及啓発活動をまとめ、広く府民の皆様に公開するものとして、平成9年度に文化財調査事務所を開所以来発刊しております。

今後とも文化財保護行政に対しまして、なお一層のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成17年11月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長　丹上　務

例　　言

1．本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第９冊である。

2．本書には、本府教育委員会が実施した平成16年度の発掘調査及び普及啓発活動等の記録を記載している。

3．埋蔵文化財調査の中の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は第５・６表の調査番号と一致する。
遺跡名（平成16年度調査番号）
（１）所在地
（２）調査の原因となった事業
（３）調査担当者

4．各項の執筆分担は次のとおりである。

「平成16年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査第一グループ総括主査　岩﨑二郎
「調査概要報告」	各調査担当者
「普及啓発・広報事業」	調査管理グループ
「資料の貸出・掲載・閲覧」	調査管理グループ

5．本書の編集は、調査管理グループが行った。

6．本書は500部作成し、一部あたりの単価は395円である。

目　　次

はじめに
例　　言
目　　次
挿図目次・表目次
平成16年度における埋蔵文化財調査の概況……1
調査概要報告
　蔀屋北遺跡　（０４００１・０４００５・０４０５４）……6
　蔀屋北遺跡　（０４０００２）……8
　雁屋遺跡　（０４０００６）……9
　平石古墳群　（０４０００７）……10
　陶器遺跡・陶器千塚古墳群　（０４０００８）……16
　中野北遺跡　（０４０００９）……17
　深井清水町Ｃ遺跡　（０４００１０）……18
　赤山古墳群　（０４００１２）……19
　大町遺跡　（０４００１３）……20
　禁野本町遺跡　（０４００１４）……21
　板原・豊中・府中遺跡　（０４００１７）……22
　中畑遺跡　（０４００２２）……23
　金岡西遺跡　（０４００２３）……24
　余部遺跡　（０４００２４）……25
　寺田遺跡　（０４００２７）……26
　福井遺跡　（０４００２６）……27
　桑原遺跡　（０４００４０）……28
　地福寺遺跡　（０４００４１）……30
　安威城跡　（０４００４７）……31
　芦部町所在遺跡　（０４００４８）……32
　下池田遺跡　（０４００５０）……33
　学園町遺跡　（０４００５２）……34
　枚方宿遺跡　（０４００６０）……35
　西大井遺跡　（０４００６１）……36
　加美遺跡　（０４００６２）……37
　堀遺跡　（０４００６５）……39
普及啓発・広報事業……40
資料の貸出・掲載・閲覧……43
文化財保護課・文化財調査事務所組織図……50

挿図目次

第１図　調査位置図……5
第２図　調査区位置図……7
第３図　Ｂ区第13面全景（Ｎより）……7
第４図　ＡＢ－Ｅ区第４面検出里道……7
第５図　Ｂ地区井戸131000……7
第６図　全景……8
第７図　遺物出土状況……8
第８図　調査区位置図……9
第９図　北壁土層断面図……9
第10図　平石谷主要古墳分布図……10
第11図　ツカマリ古墳全体図（１：400）……11
第12図　ツカマリ古墳壇東側礫敷施設（東から）……12
第13図　ツカマリ古墳壇東側北辺石列（南西から）……12
第14図　ツカマリ古墳墳丘正面（南から）……13
第15図　ツカマリ古墳羨道部（南から）……13
第16図　ツカマリ古墳全景（南東から）……14
第17図　ツカマリ古墳全景（南西から）……14
第18図　ツカマリ古墳壇東側排水施設西端部（西から）……15
第19図　ツカマリ古墳壇東側排水施設東端部（東から）……15
第20図　１区調査状況……16
第21図　調査区遠景（西から）……17
第22図　古墳全景（南東から）……17
第23図　石室全景（北西から）……17
第24図　調査区位置図……18
第25図　調査地全景……18
第26図　Ｐ16区（東から）……18
第27図　「権」形土師質土製品（原寸）……18
第28図　Ｐ16区平面図……18
第29図　調査位置図……19
第30図　調査区配置図……19
第31図　１区全景……20
第32図　禁野本町遺跡遺構全体図（Ｓ＝１／800）……21
第33図　第３調査区東部……22
第34図　土坑（縄文後期）……22
第35図　11区全景（北西より）……23
第36図　11区平面図（Ｓ＝１／250）……23
第37図　調査位置図……24
第38図　調査区配置図……24
第39図　遺構全体図（Ｓ＝１／600）……25
第40図　寺田遺跡位置図……26
第41図　１・２・３区全景（西南から）……26
第42図　第２区全景……27
第43図　竪穴住居１～３……27
第44図　桑原・地福寺遺跡調査区位置図……28
第45図　桑原遺跡航空写真……29
第46図　桑原遺跡調査平面図……29
第47図　木棺墓（手前左）、横穴式石室（中央奥）検出状況……30
第48図　横穴式石室実測図……30
第49図　安威・安威城跡調査位置図……31
第50図　16－２区　溝ＳＤ２　土器４高杯出土状況……31
第51図　遺物包含層出土須恵器……32
第52図　芦部遺跡位置図……32
第53図　調査区配置図……32
第54図　井戸全景……33
第55図　木製扉出土状況……33
第56図　調査区位置図……34
第57図　調査区土層……34
第58図　調査区位置図……35
第59図　Ⅰ区第２遺構面（南東より）……35
第60図　調査区位置図……36
第61図　第３遺構面平面図……36
第62図　調査区位置図……37
第63図　００４検出状況（北より）……37
第64図　Ａ区遺構全体図……38
第65図　００４検出状況平面図……38
第66図　Ｂ区東壁土層断面図……38
第67図　調査区位置図……39
第68図　Ｅ調査区全景（南東から）……39
第69図　Ｆ調査区全景（北西から）……39

表　目　次

第１表　原因別調査種別表 …… 1
第２表　地域別調査面積・件数一覧表 …… 1
第３表　平成16年度調査箇所一覧表（１）…… 3
第４表　平成16年度調査箇所一覧表（２）…… 4
グラフ１　原因別調査面積の推移 …… 2
グラフ２　地域別調査面積の推移 …… 2

平成16年度における埋蔵文化財調査の概要

岩崎二郎

1．調査面積と件数

平成16年度に実施した埋蔵文化財調査は72件、約54,000㎡であった。内訳は発掘調査が29件、確認調査が11件、試掘調査が18件、工事立会が14件であった。確認調査11件の内５件、試掘調査18件のうち６件で発掘調査が必要と判断された。面積・件数とも15年度に比べ微増している。

調査原因別にみると、住宅が最大で13,817㎡、ついで下水が13,150㎡、道路が11,423㎡、農林が10,308㎡で、この４事業で大部分を占める。地域別では、北河内が18,064㎡で最も多く、ついで三島、南河内、泉北、泉南の順となり、豊能・中河内・大阪市は1,000㎡に満たない。

年度ごとの変化を見ると、偶然の結果であろうが、調査面積は３年周期で増減をくりかえしている。調査原因では、年度ごとに変動はあるが、住宅・農林・道路・下水の占める割合が高い。住宅は10年度をピークに減少傾向にあったが、15年度から増加に転じた。農林は毎年コンスタントにあり増減が少ない。道路は11年度に急減したが15年度に急回復した。下水は13年度に急増したが、これは蔀屋北遺跡の調査が本格的に始まったからである。

その他の原因では９年度はみかん山古墳群(公園)、12年度は木の本遺跡(防災拠点)、16年度の河川は桑原遺跡(安威川ダム)のように遺跡内で大規模事業が計画された際に調査面積が急増することになる。

地域別でも年度ごとの変化が大きいが、住宅・圃場整備・道路・下水処理場などに伴う大規模な調査が入るという偶然に左右されることである。豊能地方では11年度で圃場整備がほぼ終息し、以後調査面積は少ない。

2．主要な調査

豊能地域

池田市内で試掘調査を１件行なっただけである。

三島地域

安威川ダム建設事業に関連した３箇所の調査を行った。桑原遺跡では飛鳥時代、平安時代、南北朝期の集落が、地福寺遺跡では７世紀後半の横穴式石室、９世紀の木管墓が、安威城跡では弥生時代後期から庄内期の遺構・遺物、７世紀の建物群などを検出した。

茨木市福井遺跡では府営住宅の建替えに伴う調査を行い、弥生時代後期の住居跡を５棟検出し、2001年の１次調査を補完する結果を得た。

高槻市中畑遺跡では圃場整備に伴って、北摂山中の小盆地に営まれた平安～中世の集落を調査した。

北河内地域

府営住宅建替えに伴う枚方市禁野本町遺跡の調査では弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡、平安時代の掘立柱建物を検出した。

枚方宿遺跡は枚方駅前の街路整備工事に伴う小規模な調査であったが、16世紀末から17世紀の京街道

	８年度		９年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
住　宅	10,696	15	16,304	10	26,271	21	23,590	15	19,623	14	11,340	11	7,905	10	12,522	19	13,817	17
農　林	11,539	15	15,482	10	15,026	21	9,242	17	13,817	18	15,250	14	8,147	12	12,441	7	10,308	6
道　路	8,870	16	14,074	15	9,590	19	4,159	17	3,504	14	1,518	18	4,256	20	11,008	21	11,423	18
下　水	1,948	7	294	10	4,355	9	4,149	6	5,066	9	22,698	14	16,846	12	13,017	6	13,150	7
河　川	1,738	9	2,351	9	1,125	6	841	7	530	3	1,389	6	146	4	1,598	4	5,204	5
高　校	1,844	7	1,680	2	750	1	8	1	425	3	526	4	8	1	1,054	7	144	9
その他	207	7	3,946	9	665	9	2,046	9	9,220	9	2,000	6	1,199	6	745	6	246	10
合　計	36,842	76	54,131	65	57,782	86	44,035	72	52,185	70	54,721	73	38,507	65	52,385	70	54,292	72

第１表　原因別調査種別表

	８年度		９年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
豊　能	8,513	12	3,647	2	5,249	5	6,026	5	310	1	317	5	1,541	3	0	0	12	1
三　島	2,163	4	1,523	7	5,779	6	4,883	7	10,629	8	6,572	9	2,175	8	5,957	11	14,060	8
北河内	4,664	11	3,738	9	7,948	10	10,396	5	4,978	10	16,263	4	17,664	4	15,733	10	18,064	9
中河内	2,099	14	6,676	11	1,205	8	665	8	8,768	12	3,385	15	949	14	3,319	13	887	9
南河内	2,692	8	20,144	8	26,178	19	9,324	18	11,450	19	19,747	16	9,381	18	14,250	14	8,388	12
泉　北	6,760	7	15,359	8	5,922	12	3,531	6	6,240	8	834	6	5,043	10	3,897	9	7,861	16
泉　南	9,882	14	2,901	17	5,206	20	8,638	19	9,810	12	5,723	17	450	5	8,971	8	4,782	11
大阪市	70	6	143	3	296	6	572	4	0	0	1,880	2	1,304	3	258	5	238	6
合　計	36,843	76	54,131	65	57,783	86	44,035	72	52,185	70	54,721	74	38,507	65	52,385	70	54,292	72

第２表　地域別調査面積・件数一覧表

に面する町屋の礎石や土間を検出した。

四條畷市蔀屋北遺跡は平成13年度以来続けている下水処理施設に伴う大規模調査であるが、今年度をもって17,500㎡に及ぶ水処理施設１期の調査が終了した。今年度はさらにポンプ棟・沈砂池に伴うＤ地区を調査し、砂ろ過施設に伴うＥ地区の調査に着手した。古墳時代中～後期の馬飼い集団の集落の実態の一端が明らかになりつつある。

中河内地域

工事立会・試掘調査・確認調査を数件行なったのみで、本格的発掘調査はない。

南河内地域

河南町平石古墳群は平成12年度以来農林事業に伴って調査を続けている。今年度はツカマリ古墳の調査を行い、東西80ｍに及ぶ方形の壇上に三段築成の方墳を築いていることが判明した。従来終末期の径10ｍ程度の円墳と考えられていたが、シシヨツカ古墳・アカハゲ古墳とともに、平石谷の南斜面に大型方墳が並んでいる状況が明らかになった。

道路新設に伴う富田林市中野北遺跡の調査では、古墳時代後期の小方墳と奈良時代の土坑墓や大溝が検出された。

美原町余部遺跡も道路新設に伴う調査である。周辺では府営住宅建替えや阪和道建設に伴う調査が重ねられ、平安時代から室町時代の鋳造遺構や屋敷地が出土し「河内鋳物師」の故地と考えられている。今回の調査でも鎌倉時代の溝で区画された屋敷地や、南北朝から室町時代の城郭跡を検出した。

泉北地域

堺市陶器遺跡は圃場整備に伴う調査で、古墳時代後期の集落から焼け歪みや生焼けの須恵器が大量に出土した。

和泉市板原遺跡は道路拡幅に伴う細長い調査であるため遺構の性格は明確でないが、古墳時代の溝・土坑、中世の柱穴等が出土した。

府営住宅の建替え工事に伴い調査した和泉市寺田遺跡では古墳時代前期の竪穴住居群、中後期の堀立柱建物群を検出した。

泉南地域

府営住宅の建替えに伴って、岸和田市大町遺跡・下池田遺跡の調査を行った。大町遺跡では近世以降の耕作痕、粘土採掘坑が検出され、自然流路からは弥生時代後期と古墳時代前期の土器が多量に出土した。下池田遺跡では中世の集落を検出したほか、中期の埴輪片がまとまって出土して付近に古墳が存在していたことが推測された。

大阪市域

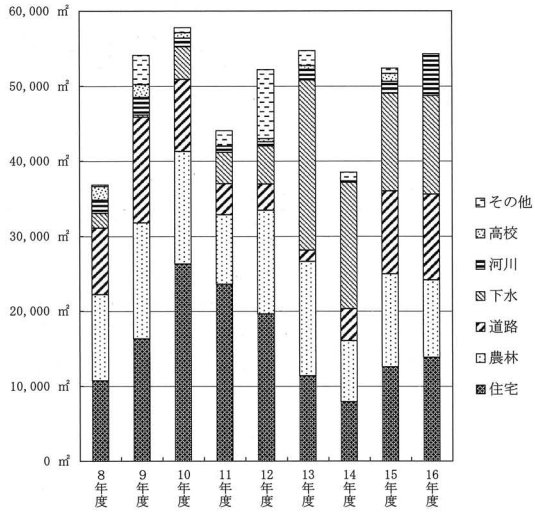
加美遺跡では公園の橋梁整備に先立って調査を行った。庄内～布留期の法面に貼石をほどこした大溝を検出した。

３．遺物整理事業

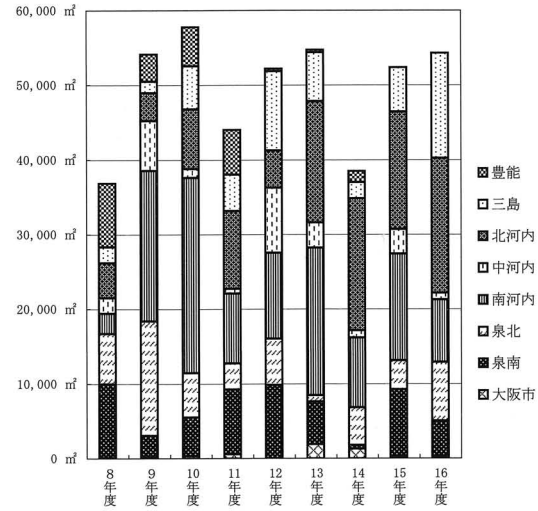
総持寺遺跡、招提中町遺跡、萱振遺跡、大県郡条里遺跡、平尾遺跡、大和川今池遺跡、吉井遺跡、安松田遺跡、大県郡条里遺跡、高校出土遺物整理の11件の遺物整理事業を行った。総持寺は３年で２冊の報告書を作成する計画で、その第１冊を刊行した。他に招提中町、大和川今池、安松田遺跡の報告書と大県郡条里遺跡の概報を刊行した。残りについては17年度遺構も整理作業を続けていく予定である。

また、14～15年度に調査した蔀屋北遺跡Ｃ地区の概報と、今年度調査した深井清水町Ｃ遺跡、中野北遺跡、赤山古墳群の報告書、陶器千塚・加納平石古墳群（Ⅳ）の概報を刊行した。

グラフ１　原因別調査面積の推移



グラフ２　地域別調査面積の推移

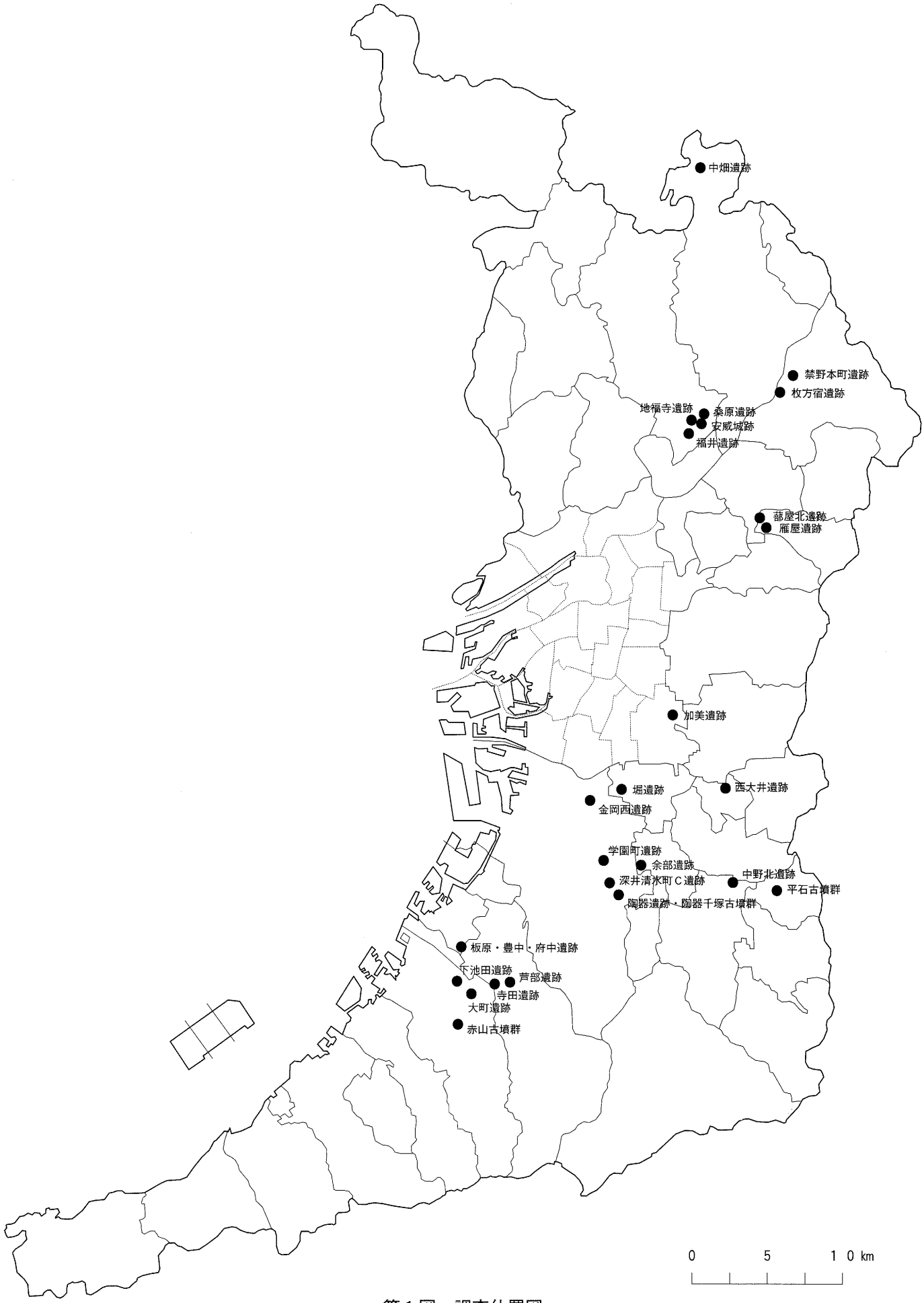


調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
04001	蔀屋北遺跡Ｂ	四条畷市蔀屋・砂	発掘	15年度から継続	平成16年9月30日	5,260 ㎡	岩瀬	下水道課	寝屋川流域下水道事業 なわて水環境保全センター
04002	蔀屋北遺跡Ｄ	四条畷市蔀屋・砂	発掘	15年度から継続	平成16年12月17日	2,010 ㎡	宮崎	下水道課	寝屋川流域下水道事業 なわて水環境保全センター
04003	遺跡外	堺市金岡東	立会	平成16年4月13日	平成16年4月13日	-	藤沢	住宅管理課	金岡東住宅エレベーター設置
04004	遺跡外	堺市東浅香山	立会	平成16年4月14日	平成16年4月16日	-	廣瀬	住宅管理課	浅香山住宅地中配管工事・浅香山住宅エレベーター設置
04005	蔀屋北遺跡Ｂ拡張	四条畷市蔀屋・砂	発掘	平成16年4月19日	平成16年9月15日	2,070 ㎡	堀江	下水道課	寝屋川流域下水道事業 なわて水環境保全センター
04006	雁屋遺跡	四条畷市雁屋	発掘	平成16年4月12日	平成16年11月10日	54 ㎡	小林	施設課	四條畷高校建替え
04007	平石古墳群	河南町平石	発掘	平成16年7月6日	平成17年3月25日	3,740 ㎡	枡本	農政室 整備課	府営中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」
04008	陶器遺跡・陶器千塚	堺市陶器北	発掘	平成16年6月10日	平成17年3月25日	2,340 ㎡	西川	農政室 整備課	府営集落基盤整備事業「陶器北地区」
04009	中野北遺跡	富田林市中野町	発掘	平成16年5月17日	平成17年3月25日	590 ㎡	西口	交通道路室 道路整備課	主要地方道美原太子線（粟ヶ池工区）道路改良事業
04010	深井清水町Ｃ遺跡	堺市深井清水町	発掘	平成16年5月10日	平成16年6月7日	336 ㎡	廣瀬	交通道路室 街路課	都市計画道路下石津泉ヶ丘線整備事業
04011	瓜生堂遺跡	東大阪市若江西新町２丁目	立会	平成16年5月20日	平成16年7月5日	-	一瀬	河川室 河川整備課	寝屋川水系寝屋川南部地下河川若江調節池整備工事土砂ピット
04012	赤山古墳群	岸和田市岡山町	確認	平成16年6月15日	平成17年3月1日	2,040 ㎡	藤沢	交通道路室 道路整備課	一般府道春木岸和田線道路整備工事
04013	大町遺跡	岸和田市大町	発掘	平成16年6月10日	平成16年11月11日	1,519 ㎡	三木	住宅整備課	府営久米田第2住宅建替え
04014	禁野本町遺跡	枚方市禁野本町	発掘	平成16年6月14日	平成17年3月25日	5,010 ㎡	井西	住宅整備課	府営枚方住宅建替え
04015	高安古墳群	八尾市神立他	発掘	平成16年6月28日	平成17年3月25日	866 ㎡	一瀬	農政室 整備課	農免農道八尾地区
04016	遺跡外	大阪市住吉区苅田他	試掘	平成16年7月5日	平成16年7月28日	52 ㎡	阿部	住宅整備課	府営苅田住宅他建替え
04017	板原遺跡	和泉市肥子町	発掘	平成16年6月10日	平成17年3月31日	1,226 ㎡	亀島	交通道路室 街路課	都市計画道路和泉中央線整備事業
04018	新堂遺跡	松原市新堂１丁目	確認	平成16年7月13日	平成16年7月26日	17 ㎡	西口	施設課	生野高校下水道放流切替工事
04019	遺跡外	富田林市川面町２丁目	立会	平成16年7月8日	平成16年7月8日	-	西口	下水道課	川面中継ポンプ場設備工事
04020	遺跡外（北園遺跡）	高槻市北園町	試掘	平成16年7月20日	平成16年8月27日	19 ㎡	一瀬	住宅整備課	府営高槻住宅建替え
04021	遺跡外	高槻市芝生町	試掘	平成16年7月26日	平成16年8月27日	56 ㎡	一瀬	住宅整備課	府営高槻芝生住宅建替え
04022	中畑遺跡	高槻市大字中畑	発掘	平成16年6月10日	平成17年2月28日	3,334 ㎡	奥	農政室 整備課	農地還元利活用事業樫田地区
04023	金岡西遺跡	堺市金岡町	発掘	平成16年7月1日	平成17年3月1日	512 ㎡	藤沢	交通道路室 街路課	都市計画道路南花田鳳西町線
04024	余部遺跡	美原町北余部	発掘	平成16年8月9日	平成17年3月31日	3,098 ㎡	阿部	交通道路室 道路整備課	主要地方道大阪狭山線
04025	寺田遺跡	和泉市寺田町	発掘	平成16年8月9日	平成17年3月25日	3,038 ㎡	杉本	住宅整備課	府営和泉寺田住宅建替え
04026	湊遺跡	貝塚市上瓦屋	立会	平成16年8月9日	平成16年8月9日	-	廣瀬	交通道路室 交通対策課	和歌山貝塚線歩道設置
04027	福井遺跡	茨木市西福井２丁目	発掘	平成16年8月2日	平成17年3月25日	2,879 ㎡	横田	住宅整備課	府営茨木西福井住宅建替え
04028	遺跡外	東大阪市宝持	試掘	平成16年8月19日	平成16年8月19日	12 ㎡	一瀬	高校改革課	布施工業高校整備実習棟増築
04029	遺跡外	和泉市富秋町	試掘	平成16年8月23日	平成16年8月23日	8 ㎡	廣瀬	高校改革課	和泉工業高校定時制整備
04030	遺跡外（土師ヶ町遺跡）	藤井寺市御舟町	試掘	平成16年8月27日	平成16年8月30日	10 ㎡	西口	高校改革課	藤井寺工業高校整備
04031	遺跡外	大阪市西成区出城	試掘	平成16年8月25日	平成16年8月25日	6 ㎡	西口	高校改革課	今宮工業高校定時制
04032	大堀遺跡	松原市大堀町	確認	平成16年8月27日	平成16年8月27日	14 ㎡	西口	交通道路室 交通対策課	交通安全施設等整備事業
04033	国府遺跡	藤井寺市国府１丁目	確認	平成16年8月31日	平成16年10月15日	6 ㎡	西口	交通道路室 交通対策課	交通安全施設等整備事業
04034	岸和田城跡	岸和田市岸城町	立会	平成16年9月6日	平成16年9月6日	-	廣瀬	府警本部 施設課	蛸地蔵交番基礎撤去
04035	遺跡外	貝塚市橋本	試掘	平成16年9月8日	平成16年9月9日	16 ㎡	廣瀬	住宅整備課	府営貝塚橋本住宅建替え
04036	遺跡外	泉佐野市東羽倉崎町	試掘	平成16年9月14日	平成16年9月16日	22 ㎡	杉本	住宅整備課	府営泉佐野羽倉崎住宅建替え
04037	大町遺跡	岸和田市大町	確認	平成16年9月21日	平成16年9月22日	10 ㎡	三木	住宅整備課	府営岸和田大町住宅建替え

第３表　平成16年度調査箇所一覧表（１）

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
04038	遺跡外（鳳東町４丁遺跡）	堺市鳳東町	試掘	平成16年6月3日	平成16年6月14日	24 ㎡	三木	府警本部施設課	堺南警察署庁舎改築工事
04039	大仙遺跡	堺市大仙町	確認	平成16年7月12日	平成16年7月13日	13 ㎡	枡本	障害教育課	府立高等聾学校（仮称）
04040	桑原遺跡	茨木市桑原	発掘	平成16年9月21日	17年度に継続	5,180 ㎡	一瀬 堀江	河川室 ダム砂防課	安威川ダム建設事業
04041	地福寺遺跡	茨木市桑原地先	発掘	平成16年9月21日	平成17年2月4日	24 ㎡	一瀬	河川室 ダム砂防課	安威川ダム建設事業
04042	上町遺跡	泉佐野市上町	確認	平成16年8月24日	平成16年8月24日	3 ㎡	阿部	高校改革課	佐野工業高校夜間定時制
04043	遺跡外	堺市大山中町	試掘	平成16年8月29日	平成16年8月30日	14 ㎡	阿部	高校改革課	堺工業高校夜間定時制
04044	西の辻・鬼塚遺跡	東大阪市南荘町	発掘	平成16年7月23日	平成16年10月27日	9 ㎡	一瀬	水道部東部水道事業所	配水管更生立坑築造工事
04045	遺跡外	和泉市芦部町	試掘	平成16年10月27日	平成16年10月27日	6 ㎡	西口	交通道路室 交通対策課	一般国道408号歩道設置工事
04046	瓜生堂遺跡	東大阪市若江西新町1-11-21	立会	平成16年9月13日	平成16年9月13日	－	一瀬	水道部東部水道事業所	送水管布設工事（枚岡布施連絡管）
04047	安威（安威城跡）	茨木市東安威	発掘	平成16年11月29日	平成17年3月31日	2,448 ㎡	一瀬	交通道路室 道路整備課	主要地方道茨木亀岡線道路整備工事
04048	遺跡外（芦部町所在遺跡）	和泉市芦部町	発掘	平成16年11月8日	平成16年12月10日	300 ㎡	廣瀬	交通道路室 交通対策課	国道480号歩道設置
04049	東野新池北窯跡	大阪狭山市東野中3丁目	確認	平成16年11月8日	平成16年11月19日	16 ㎡	西口	農政室 整備課	府営ため池等整備事業
04050	下池田遺跡	岸和田市下池田	発掘	平成16年11月17日	平成17年3月25日	1,160 ㎡	三木	住宅整備課	府営久米田第４住宅建替え
04051	遺跡外	貝塚市麻生中	試掘	平成16年11月24日	平成16年11月26日	12 ㎡	三木	農政室 整備課	府営ため池等整備事業（麻生中新池）
04052	遺跡外（学園町遺跡）	堺市学園町	試掘	平成16年11月24日	平成16年12月1日	44 ㎡	関	府大施設課	府立大学整備計画工事
04053	遺跡外	大阪市東淀川区下新庄４丁目	試掘	平成16年8月18日	平成16年8月19日	12 ㎡	小林	住宅整備課	府営下新庄４丁目住宅建替え
04054	蔀屋北E	四條畷市蔀屋・砂	発掘	平成16年12月7日	17年度に継続	3,140 ㎡	岩瀬	下水道課	寝屋川流域下水道事業 なわて水環境保全センター
04055	遺跡外	大阪市住吉区大領３丁目	試掘	平成16年12月6日	平成16年12月7日	36 ㎡	西口	障害保健福祉室施設課	肢体不自由者更生施設等建設工事
04056	大正橋遺跡	八尾市太田８丁目	立会	平成16年12月13日	平成16年12月13日	－	西口	国土交通省	河川敷公園地区瀬と淵浄化槽建設工事
04057	遺跡外	和泉市池田下	立会	平成16年11月10日	平成16年11月10日	－	廣瀬	河川室 河川整備課	槇尾川改修
04058	遺跡外	岸和田市東大路町	立会	平成16年12月16日	平成16年12月16日	－	廣瀬	河川室 河川整備課	牛滝川改修
04059	木の本遺跡	八尾市空港２丁目	立会	平成16年12月13日	平成16年12月14日	－	一瀬	第5管区海上保安本部	八尾航空基地空中線用鉄塔撤去
04060	枚方宿遺跡	枚方市岡本町	発掘	平成16年12月10日	平成17年2月25日	100 ㎡	岡田	交通道路室 街路課	枚方市駅前街路整備
04061	西大井遺跡	藤井寺市西大井２丁目	発掘	平成17年1月11日	17年度に継続	670 ㎡	関	下水道課	大井処理場塩素混和池・放流渠建設工事
04062	加美遺跡	大阪市平野区加美東６丁目	発掘	平成17年1月21日	平成17年3月31日	120 ㎡	一瀬 岡田	公園課	久宝寺緑地内橋梁整備工事
04063	中野北遺跡	富田林市粟ヶ池町	確認	平成17年1月18日	平成17年1月19日	110 ㎡	西口	交通道路室 道路整備課	主要地方道美原太子線改良工事
04064	鮎川遺跡	茨木市鮎川・高槻市西町	確認	平成16年7月16日	平成17年1月28日	120 ㎡	一瀬 奥	交通道路室 街路課	都市計画道路富田目垣線整備工事
04065	堀遺跡	松原市天見南５丁目	発掘	平成17年3月7日	平成16年3月15日	117 ㎡	西口	交通道路室 街路課	都市計画道路堺港大堀線
04066	久宝寺遺跡	八尾市神武町	立会	平成17年3月7日	平成17年3月7日	－	一瀬	下水道課	寝屋川流域下水道事業 竜華水環境保全センター送泥管
04067	日置荘遺跡	堺市高松	立会	平成17年2月9日	平成17年3月14日	－	藤沢	住宅管理課	エレベーター設置
04068	上ノ山遺跡	枚方市茄子作東町、交野市私部西４・５丁目	確認	平成17年3月15日	17年度に継続	400 ㎡	奥	交通道路室 道路整備課	一般国道168号（都市計画道路枚方大和高田線、天の川磐船線）
04069	遺跡外（遺跡名未定）	池田市城南３丁目	試掘	平成16年8月30日	平成16年8月31日	12 ㎡	小林	住宅整備課	府営池田城南住宅建替え
04070	遺跡外	大阪市西淀川区出来島１丁目	試掘	平成17年3月15日	平成17年3月16日	12 ㎡	横田	住宅整備課	府営大和田川住宅建替え
04071	遺跡外	寝屋川市本町	試掘	平成16年9月13日	平成16年9月13日	20 ㎡	小林	高校改革課	寝屋川高校校舎建設
04072	植附遺跡	東大阪市西石切２丁目	立会	平成17年3月17日	平成17年3月17日	－	横田	交通道路室 交通対策課	国道170号線歩道設置

第４表　平成16年度調査箇所一覧表（２）


中畑遺跡
禁野本町遺跡
枚方宿遺跡
地福寺遺跡
桑原遺跡
安威城跡
福井遺跡
蔀屋北遺跡
雁屋遺跡
加美遺跡
堀遺跡
西大井遺跡
金岡西遺跡
学園町遺跡
余部遺跡
深井清水町C遺跡
中野北遺跡
平石古墳群
陶器遺跡・陶器千塚古墳群
板原・豊中・府中遺跡
下池田遺跡
芦部遺跡
寺田遺跡
大町遺跡
赤山古墳群
0
5
10 km

第1図　調査位置図

蔀屋北遺跡（０４００１・０４００５・０４０５４）

（１）四條畷市蔀屋・砂
（２）なわて水環境保全センター建設
（３）岩瀬　透(Ｂ地区、Ｅ地区)、堀江門也（ＡＢ拡張区）

はじめに

なわて水環境保全センター建設に先立って、実施されている蔀屋北遺跡の発掘調査は、平成13年度に着手されＡ、Ｂ、Ｃに３分割して実施されている水処理施設地区が、平成15年４月から平成16年９月までの期間を費やして実施したＢ地区の5,260㎡をもって終了した。さらに平成15年４月より新たにＡＢ拡張区（工事用道路）2,070㎡、平成15年12月にＤ地区（ポンプ棟・沈砂池）2,010㎡、平成17年１月よりＥ地区（砂ろ過施設）3,140㎡の調査に着手した。

Ｂ地区の調査の概要

Ｂ地区では13面の遺構面を確認した。

そのうち第１面、第２面は中世の耕作面、第３面から第９面は平安時代の耕作面である。第４面以上の面には、ほぼ中央部を東西に走る堤状の里道が存在し、これは四條畷市史に記載がみられる「八丁堤道」にあたるといえる。出土した遺物から、第４面は11世紀後半に比定される。

第５面は南側はほぼフラットでT.P＋1.9ｍを示す。一方、北端部はT.P＋2.2ｍで、そこから中央に向かって約0.3ｍの比高差を持って緩やかに傾斜する。調査区中央を東西方向に走る幅2.5ｍを測る大畦畔、それに直交する畦畔、土坑などが検出され、出土した土師器、Ａ類黒色土器から、第５面は11世紀に比定される。この面より上層で検出した畦畔は、讃良郡条里の地割り方向に順じている。

第10面は低地でT.P＋0.9ｍ内外、自然堤防上の高台でT.P＋1.6ｍ内外で検出された。水田面となっていたが、遺構は北半部の高台でのみ確認され、畦畔、溝などが検出された。出土した須恵器、土師器などから、第10面は８世紀に比定される。この面で検出された水田面の畦畔は、小区画の水田を形成する。

第11面は調査区の北東半部の低地でのみ確認された。標高はT.P＋0.9ｍ内外で、畦畔、ピットなどの遺構が検出された。出土した須恵器、土師器などから、第11面は７世紀に比定される。この面の畦畔は第10面と同様に、小区画の水田を形成するものである。

第12面は低地でT.P＋0.7ｍ内外、自然堤防上の高台でT.P＋1.5ｍ内外で検出された。古墳時代後期の遺構面であり、掘立柱建物、溝などが検出されたが、ベースとなる黒灰色シルトの堆積が高台上では最大で0.1ｍ弱と薄く、まったくみられない部分も存在し、その部分では第13面で検出された。

第13面は低地でT.P＋0.6ｍ内外、自然堤防上の高台でT.P＋1.4ｍ内外で検出された。古墳時代中期の遺構面であり、竪穴住居、掘立柱建物、井戸、土坑、溝などの遺構が検出された。遺構はほぼ全域に広がるが、Ｃ地区の西半部からＢ地区の北西半部にかけての高台の地域で特に集中してみられた。

ＡＢ拡張区の調査の概要

この調査区は、水処理施設建設工事に際して使用される工事用道路の部分で、東側のＡＢ－Ｅ地区と西側のＡＢ－ｗ地区にわかれる。ともに重機による作業に耐用できるように土壌改良が必要となった範囲について調査区を設定し、影響をうけるT.P＋2.1ｍまでの深度に限定して調査した。

調査の結果、隣接するＡ地区あるいはＢ地区と同様に、第１面から第４面の遺構面が検出され、八丁堤道および周辺の水田遺構が確認でき、特に、ＡＢ－ｗ地区では、調査区北端部で八丁堤道が東西方向から南西に折れる地点が確認された。これは各遺構面で共通する。

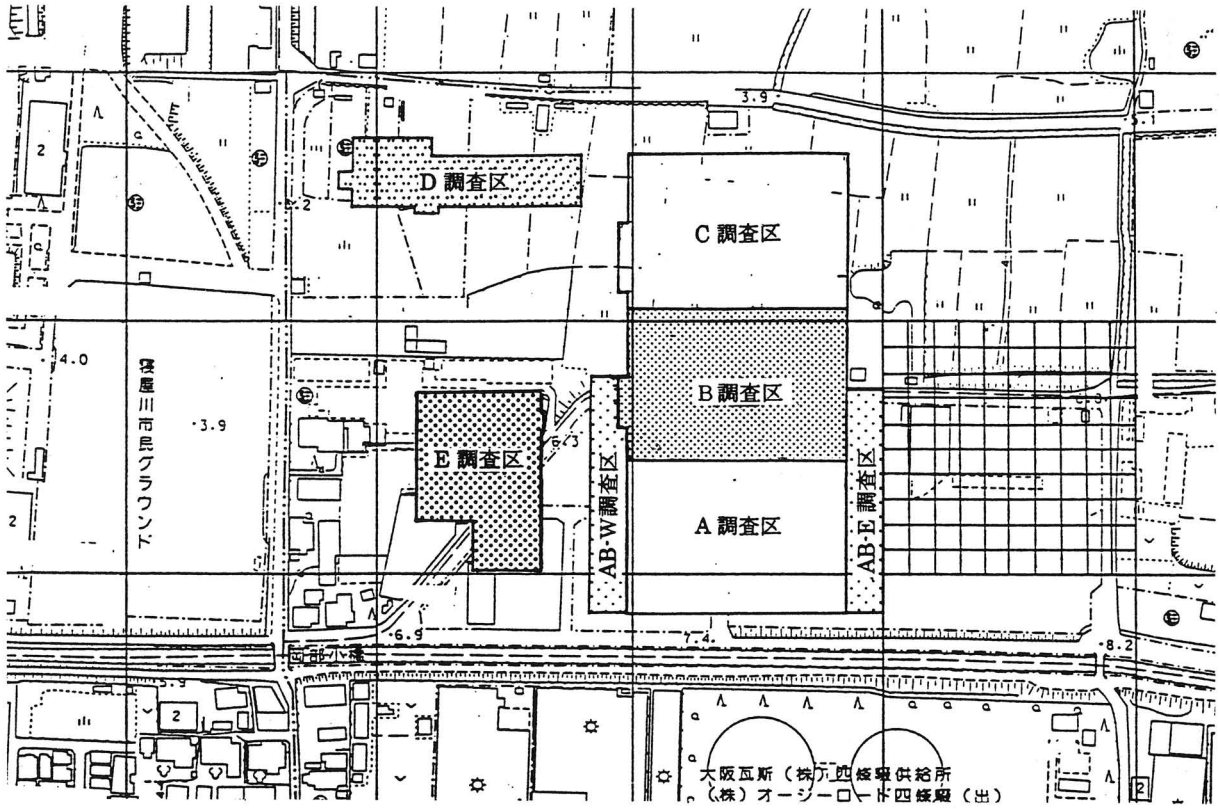
Ｅ地区の調査の概要

Ｅ地区は砂ろ過施設建設予定地区で、平成17年１月より調査を開始し、平成17年３月現在は、第２面の中世の耕作面を検出した段階である。調査は平成17年12月までを工期として実施しており、詳細は次年度に譲る。

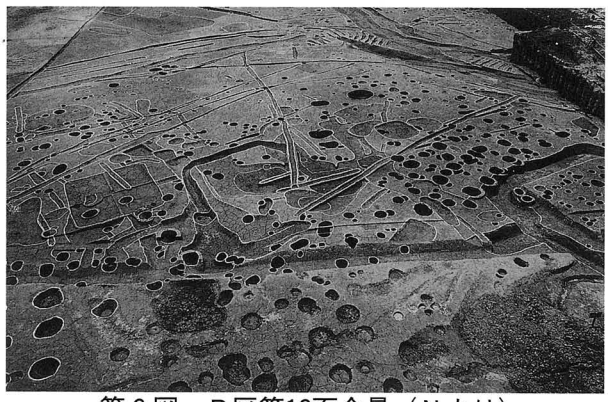
まとめ

Ｂ地区の完了をもって、約17,500㎡にわたる水処理施設建設予定地の調査が完結することとなった。すでに成果が公表されている、Ａ地区、Ｃ地区でみつかった蔀屋北遺跡の古墳時代中期～後期集落の形成過程が、Ｂ地区の調査成果によってより明瞭になったものといえる。

これまでの調査成果では、馬の埋納土壙や製塩土器が大量に出土した土坑、木製の輪鐙など、蔀屋北遺跡が馬飼い集団の集落と考えられる遺構、遺物の出土がみられたが、Ｂ地区では西都原式の準構造船の部材を転用した井戸、陶質土器や韓式土器、移動式カマド、Ｕ字形土製品などが検出され、馬飼い集団が朝鮮半島と深い関わりを窺わせるものであったといえる。

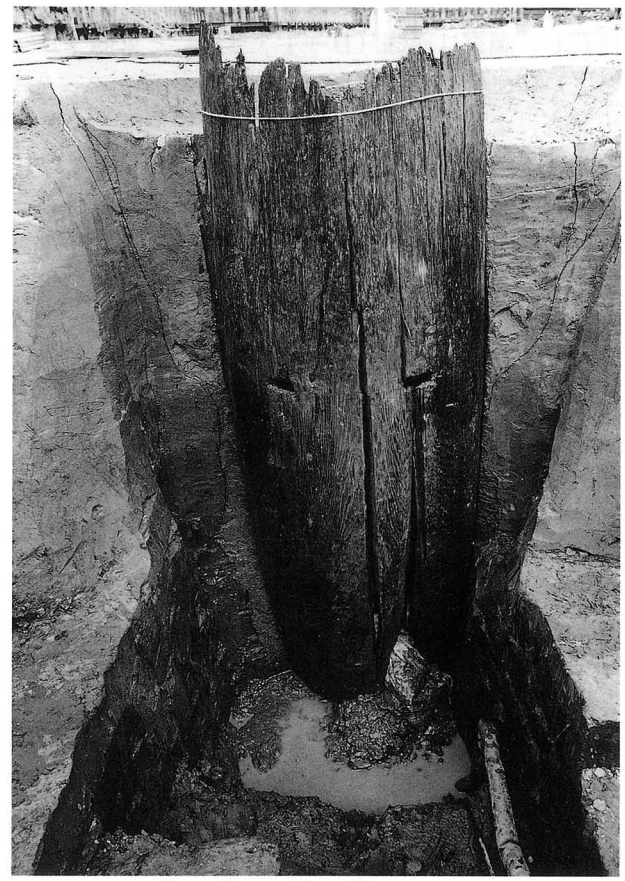


第２図　調査区位置図



第３図　Ｂ区第13面全景（Ｎより）

第４図　ＡＢ－Ｅ区第４面検出里道



第５図　Ｂ地区井戸131000

蔀屋北遺跡（０４０００２）

（１）四條畷市砂
（２）なわて水環境保全センター建設
（３）宮崎泰史

はじめに

蔀屋北遺跡は、平成11・12年度の試掘調査で発見されて以来、平成15年までの間に大規模な調査が実施され、現在も調査（Ｅ調査区）が行われている。その結果、古墳時代を中心とする弥生時代から近世にかけての複合遺跡として周知されている。これまでの調査において５世紀から６世紀にかけて「河内馬飼い」との関わりを示す多くの馬の骨、木製輪鐙、馬の埋葬土坑、馬の埋納土坑、そして井戸枠に転用された準構造船の部材、40棟以上の掘立柱建物跡、20軒以上の竪穴住居跡、さらに渡来人とのかかわりを示す韓式系土器、焚口の縁を飾るＵ字形板状土製品（焚口縁飾）などが見つかるなど多大な成果を挙げている。

今回の調査区（Ｄ調査区）は、平成13年に調査した下水道管渠築造工事（その１）に西接し、平成14～15年にかけて調査したＣ調査区の東側に位置する（第６図）。面積は2,010㎡である。

調査の方法と概要

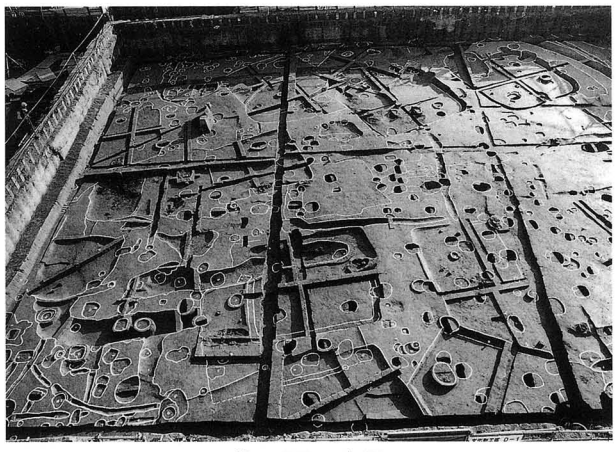
本体工事の関係で、調査区を３分割（Ｄ－１～３区）し、調査は西側（Ｄ－１・３区）と東側（Ｄ－２区）に二分し、行った。

調査によって、近世から弥生時代中期前半の遺構を検出した。近世では畝溝、中世から古代では井戸・掘立柱建物跡・ピット・溝・畠跡・水田跡などを検出した。古墳時代では竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝、土坑、井戸、ピット、畦畔などを検出した。弥生時代中期の遺構は、Ｄ－２区のトレンチ調査で、溝や土坑などが蔀屋北遺跡では初めて確認された。なお、弥生時代中期の遺構の調査は、掘削予定深度を超えていたので、いったん埋め戻し、平成17年度に本体工事の期間中に調査を行うこととした。

古墳時代の遺構と遺物の概要

古墳時代中期から後期（５世紀中頃～６世紀後半）の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝、土坑、井戸、ピットなどを検出している。西端で検出された溝900は、以前に木製輪鐙の出土をみた蔀屋北遺跡（その１）の溝11と同じ大溝で、埋土中より多量の須恵器、土師器とともに韓式系土器、移動式かまど、ガラス玉、滑石製臼玉、砥石、木製品、ウマ・イヌ・イノシシ・魚類・貝類などの動物遺存体、種子などが出土している。掘立柱建物跡はＤ－１区では５棟以上、Ｄ－２区では中央の谷を挟んで西側で３棟、東側で４棟。竪穴住居跡はＤ－１区では複雑に切りあいながら18軒以上、Ｄ－２区では３軒が検出されている（第７図）。また、Ｄ－２区では、東南隅で北東から南西に走行する自然河川と自然河川に接して径約５ｍ、深さ約２ｍを測る素掘りの井戸474を検出した。いずれも６世紀後半の時期で、井戸内から須恵器や土師器とともに多種多量の木製品（斎串、大足、下駄、つちのこ、転用された梯子、槽、鋤、大型曲物の底板、建築部材）、そしてヒョウタン、貝などが出土している（第７図）。

なお、今後も調査は継続されるので、さらに重要な知見が追加され、蔀屋北遺跡を評価していく上で、その進展が大いに期待される。



第６図　全景

第７図　遺物出土状況

雁屋（かりや）遺跡（０４００６）

（１）四條畷市雁屋北町
（２）府立四條畷高校内防火水槽設置
（３）岡田賢

はじめに

雁屋遺跡は、生駒山地から西流する権現川などの小河川によって形成された複合扇状地の先端部に立地している。これまでの調査で、弥生時代前期の遺構、遺物や弥生中期・後期の方形周溝墓、竪穴住居跡が多数検出されており、北河内を代表する弥生時代の遺跡として知られている。

今回の調査は府立四條畷高校内の防火水槽設置に伴うもので、調査地点は1986年度に行った校舎建て替えに伴う発掘調査区の北に隣接する。調査面積は54㎡である。

調査の概要

第１層は黄褐色粘質土で中世以降の耕作土である。東西方向の鋤溝を検出している。

第２層は暗灰黄色粘質土層、第３層は暗褐色砂混じり粘土層で、弥生時代後期の遺物包含層である。調査区東端の第３層上面で自然流路を検出しており弥生土器、木製品が出土している。

第４層は黒褐色砂混じり粘土。

第５層はオリーブ黒色砂混じり粘土。

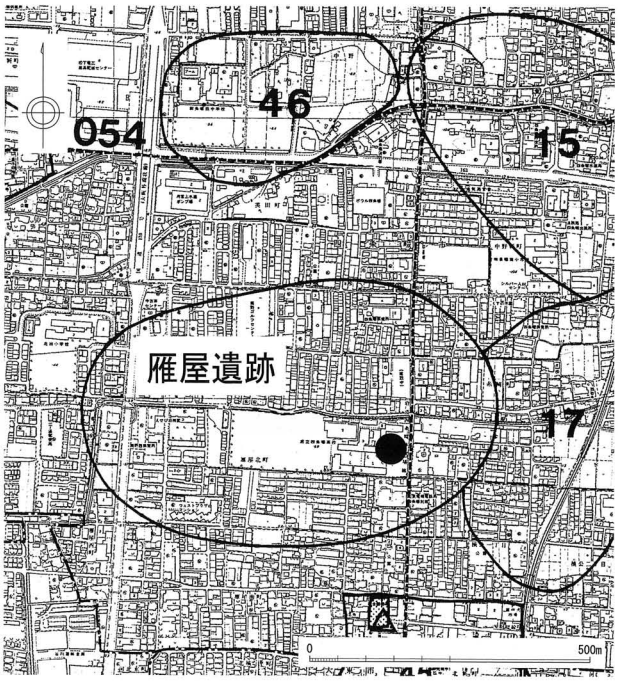
第６層は灰色～灰オリーブ色のシルト～砂質シルト層。第５層下面は均平ではなく所々で波打つように凸凹があり、第６層堆積後に何らかの攪拌があると考えられる。また調査区南東隅の第５層上面で北東－南西方向の自然流路を検出している。弥生中期の土器片が少量出土している。

第７層は灰白～灰オリーブ色の中粒～粗粒砂である。所々に第６層や第８層の粘土をブロック状に含む。調査区の西に向かって徐々に薄くなる。遺構、遺物ともに存在しない。第８層はオリーブ黒～黒色のシルト質粘土～粘土層で、調査区全面で検出されている。南の86年度調査区において検出された方形周溝墓の盛土のベースとなる黒色粘土層と同一の層である。第９層は緑灰色シルト層。遺物はほとんどない。上面で浅い溝を検出している。

まとめ

本調査区の南に位置する86年度調査区では弥生時代中期の方形周溝墓が３基確認されている。今回の調査でも方形周溝墓の一部が検出されると予測していたが、期に反して遺構、遺物は顕著ではなかった。遺物はコンテナ１箱に過ぎない。

本調査区の第５・６層は、86年度調査区で検出された方形周溝墓を覆う黒色砂混じり粘土と共通する可能性があるが、第７層の砂層が方形周溝墓のマウンドになる可能性は低いと考えられる。第７層から第４層までは弥生時代中期に堆積したと考えられ、その生成要因は土壌分析を含めて今後の重要な検討課題である。



第８図　調査区位置図

第９図　北壁土層断面図

加納（かのう）・平石（ひらいし）古墳群（０４０００７）

（１）河南町平石
（２）中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」
（３）枡本　哲

ツカマリ古墳は昨年度調査したアカハゲ古墳の東170ｍに位置する。石室内部は昭和54年（1979）に調査されている。それによると主体部はアカハゲ古墳と同様花崗岩切石を組み合わせた南に開口する横口式石槨で、これに前室、羨道がつき、全長は7.65ｍであった。奥室は二上山西方寺山産「青石」の方形扉石（高さ1.5ｍ、幅1.6ｍ、厚さ0.25ｍ）で閉鎖されていた。羨道の床面は奈良県室生一帯に分布する流紋岩質溶結凝灰岩「榛原石」が二重に敷き詰められ、その南端は人頭大の石を６段以上積み上げて閉塞されていた。

奥室や前室で漆塗籠棺、夾紵容器、緑釉陶製棺台、ガラス製扁平管玉、丸玉、七宝飾銀製刀子飾金具、刀身に龍文を施した鉄刀、金製コイル状金具、金糸などが出土した。古墳の年代はアカハゲ古墳と近く、７世紀第３四半期とされている。

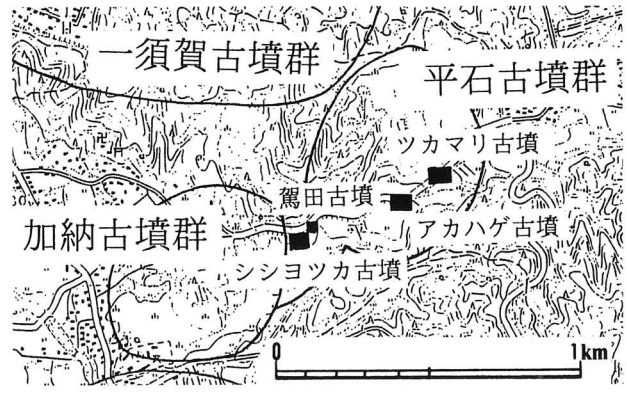
今回の調査は古墳外部の状況を掴む目的で実施した。立地はこれまでの平石谷の大形古墳と同じく北西から南西に下る一の禿げ山塊のひとつの尾根の先端付近を利用している。しかし狭い尾根の張り出し部分に築いているため、古墳築造にあたっては西側谷地形の傾斜変換線ぎりぎりまで利用している点が特徴的である。

墳丘の土台となる壇は東西約80.0ｍ、南北は中央で14.0ｍ、墳丘を西に寄せた結果確保された東側の空間では壇の南北は35ｍを測る。旧地形は北西から南東に低くなるので、南東側には背後の山を削った土を盛り上げ、西側との高さを調整した壇上の平坦面を造成している。シシヨツカ古墳やアカハゲ古墳のような自然地形の南への張り出しはなく、急激に平石谷に落ち込む急斜面であり、この不安定な要素を解消するために壇の南側には砂質土や粘質土を丁寧に積み上げ、それが水平な縞状の互層となって観察される。壇上面には墳丘を取り巻く浅い水溜り状の周溝がみられるが、これも上記の２古墳に共通する。壇上面東側空間には東西15ｍ、南北13ｍの方形の礫敷き施設があり、周溝を挟んでその北側に大石が２つあり、この大石に北接して礫敷き施設北辺に平行するように東西方向に帯状に川原石を並べていた。断面観察からするとこれらの石列を配した後、その上に土を盛り上げて周溝北辺の肩とし、山手との境をつけた形跡も認められる。壇の地下には山手や墳丘からの滞水を始末する排水施設が壇南斜面と東斜面に確認され、特に東側斜面のものは天理大学の協力を得て実施された探査結果と合致する。

墳丘は３段築成の方墳で、１段目は東西43.2ｍ、南北は南から北へ25.5ｍ延びた所で尾根の斜面に取り付けている。第２段目は東西34.5ｍ、南北22.2ｍ以上。第３段目は開墾によりかなり削られているが、東西は約23.1ｍ、南北15ｍ以上と考えられる。高さは中軸線にかかる部分で現状の墳丘高7.2ｍ、壇下からは11.2ｍとなる。墳丘は粘質土と砂質土を交互に水平に積み重ね、各段の傾斜角は35°～40°で、段の斜面には貼石、上面には敷石を施工している。

今回の調査では閉塞石南縁より南へ約５ｍの羨道が付設されていることが判明した。その壁面は自然石の平坦面を内側面とし、床面は小ぶりの川原石の平坦面で揃え、外観をこしらえたものである。この床面には石室閉塞後に床面を埋める過程で設えられた排水施設と思われる石列も検出された。この石列の一部を除去したところ、羨道床面直上の埋土から須恵器坏蓋口縁部の細片が出土している。また石列上の羨道埋土からも須恵器甕体部細片が出土している。そのほか墳丘第１段や２段を覆う中世耕土から漆塗籠棺片、緑釉陶製棺台片、榛原石片が出土した

従来径10ｍ程度の円墳とされていた墳丘のイメージを大きく変える大形方墳の全体像、シシヨツカ古墳やアカハゲでは認められなかった礫敷き施設、入念に築かれた大規模な壇造成、全長13.5ｍになる埋葬施設の存在等々が明らかとなった。



第10図　平石谷主要古墳分布図

第11図　ツカマリ古墳全体図（１：400）

第12図　ツカマリ古墳壇東側礫敷施設（東から）

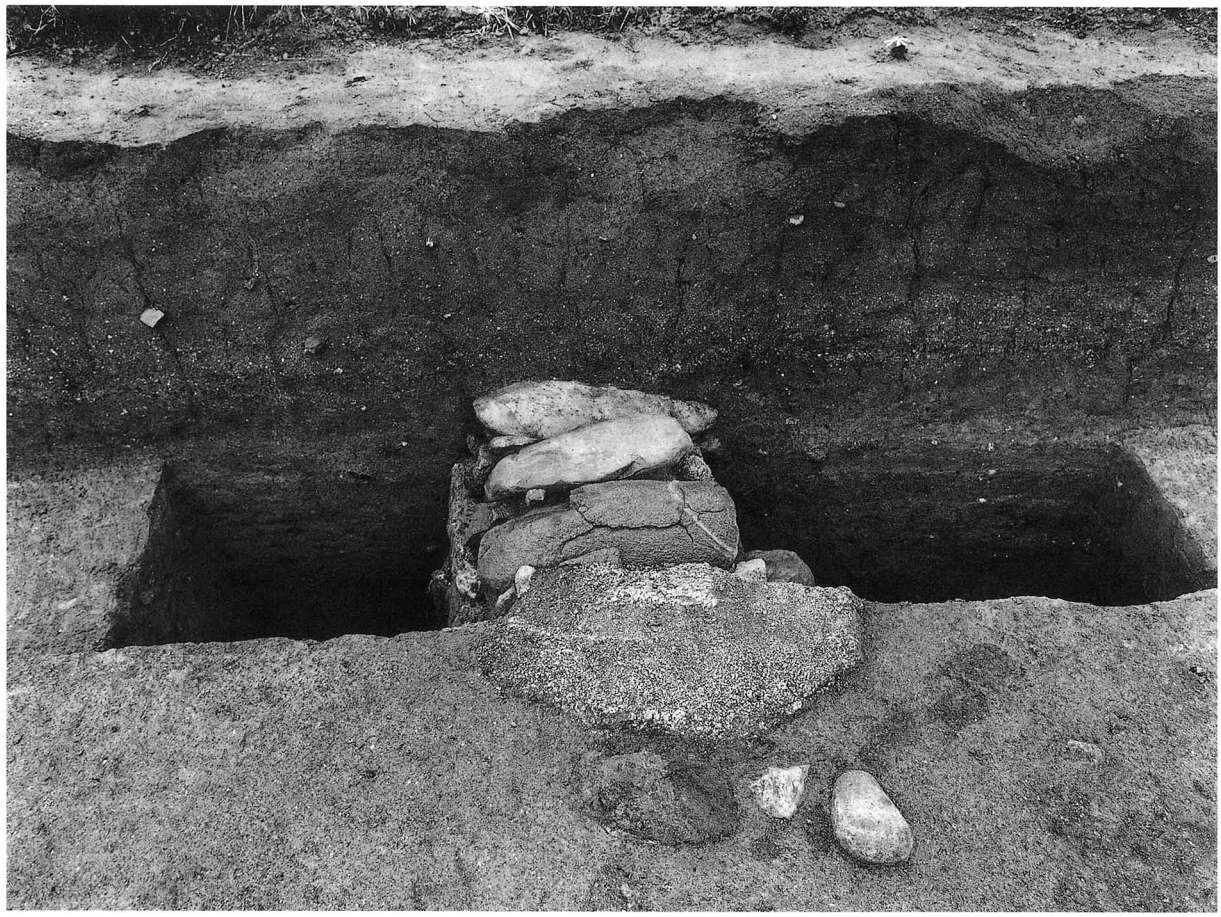
第13図　ツカマリ古墳壇東側北辺石列（南西から）

第14図　ツカマリ古墳墳丘正面（南から）

第15図　ツカマリ古墳羨道部（南から）

第16図　ツカマリ古墳全景（南東から）

第17図　ツカマリ古墳全景（南西から）



第18図　ツカマリ古墳壇東側排水施設西端部（西から）

第19図　ツカマリ古墳壇東側排水施設東端部（東から）

陶器北遺跡・陶器千塚（０４００８）

（１）堺市陶器北
（２）府営集落基盤整備事業「陶器北地区」
（３）西川寿勝

遺跡の概要

陶器遺跡・陶器南遺跡は古墳時代後期から奈良時代にかけての須恵器製作工人がくらした集落として知られる。本格的に調査されたのは今回事業がはじめてである。今年度の調査は掘立柱建物・排水溝・ごみ穴などの土坑と、焼けひずんだり生焼けの須恵器が大量に発見され、陶器千塚の範囲内にも同時期の集落が広がることがわかった。

今回調査区の成果

今年度は八田地区とその北側の住区地区について約3000㎡に渡って発掘調査をした。八田地区中央の東西に長い１区からは一棟の掘立柱建物と溝・土坑群が発見された。発見された溝は40、土坑は20以上に及ぶ。もっとも長い溝１－６は35ｍ以上、地形にそって掘削されることから排水溝と考える。もっとも大きな土坑１－２は直径６ｍ以上あり、溝・土坑には六世紀後半の須恵器が大量に捨てられていた。１区の上面は後世に耕作が続けられ、溝や土坑は深さ10㎝程度しか残っておらず、須恵器などの遺物は周辺にも散乱していた。１区の東側、八田地区中央の２区からも二棟の掘立柱建物と10条の溝・６基の土坑がみつかり、六世紀後半の須恵器が数多く含まれていた。

３区は今回調査区の北西隅で住区地区にあたる。古墳時代の遺構は削られており、残っていなかった。その上面の盛り土には江戸時代後期の溝や土坑があり、陶磁器が散乱していた。近くに嘉永年間の銘をもつ安山岩製の地蔵があり、関連するものと思われる。試掘調査では古墳状の高まりが確認されており、この盛り土を含め、かつては塚になっていた可能性が指摘されている。

４区は３区の南西に位置し、付近の試掘調査では江戸時代前期の遺構が発見され、陶器藩に関連するものと注目していた。今回の調査では遺構は確認できず、上面からは江戸時代前期の陶磁器がみつかった。

５・６・７区は４区の東に位置し、６区の南側では江戸時代前期に埋没する土段状の区画が発見され、陶器藩の屋敷にかかわる可能性が高い。７区は住区地区の北端で、古墳時代の溝があった。須恵器も数多く見つかったが、大半は後世にかく乱されていた。

８区は１区の西に接するＬ字形の調査区で一棟の掘立柱建物と三条の溝・三基の土坑が発見された。７・８区の調査によって、古墳時代の集落が東西・南北300ｍ四方にまでひろがることが確認された。

発見された遺物

今回調査では１・２区からコンテナ約200箱の土器が発見された。一般集落にくらべ、出土遺物の多さが顕著である。大半は六世紀後半の須恵器で焼け歪んだもの・生焼けのものばかりだった。この集落が窯で焼かれた製品の集積と選別場になっていたことを物語る。製品には甕・壺・杯のほか、古墳に供える器台や高杯が目立つ。そのほか、窯道具の一部や泉州で活発に行われていたイイダコ漁に使われるタコ壺もある。

なお、詳細については本府刊行の『陶器遺跡・陶器千塚発掘調査概要』にくわしい。

第20図　１区調査状況

中野北（なかのきた）遺跡（０４００９）

（１）富田林市中野町
（２）主要地方道美原太子線道路改良事業
（３）西口陽一

１．調査方法

道路新設区域に鋼矢板を打ち、地表下2.6ｍまで機械・人力で掘り下げ、発掘調査を実施した。多量の掘削土を場外に搬出できないため、調査区を東西に２分割し、反転調査した(590㎡)。最終遺構面を写真測量し、記録保存の措置を施した。

２．調査結果

調査区西半部には、厚い新盛土があり、地表面下2.1ｍで、旧の耕土層に達する。その下に、古代～中世の遺物包含層が３層あり、各面で古代～中世の水田・畑跡が検出された。最終遺構面で検出された遺構には、古墳・溝・土坑などがあった。

古墳は、墳丘部が削平された一辺4.9ｍの小方墳で、堀の幅は1.1～1.3ｍ、深さは８～10㎝であった。溝からは、国府型ナイフ形石器が１点出土した。古墳の主体部は、主軸を磁北に合わした小型石室で、両サイドに長さ30㎝幅15㎝程の長楕円形の川原石が並べられていた。その石列内部に検出された敷石は、径10㎝内外のものが多く、幅35～50㎝長さ２ｍにわたって、一面に敷き詰められていた。石列の埋土中からは、鎌倉時代の瓦器椀や奈良時代の土師器・炭片などが出土し、敷石上面からは、古墳時代後期の須恵器大甕片などが出土したが、石室の時期を決定するものかどうかについては、不明であった。石列・敷石中には、砥石・すり石が転用されていた。

古墳の南西隅で検出された長さ1.3ｍ幅90㎝深さ38㎝の楕円形土坑３からは、奈良時代の須恵器杯や土師器高杯が出土し、土坑墓と考えられた。古墳の北側で検出された楕円形の土坑２からは、供献土器と考えられる珍しい飛鳥時代の須恵器長頸壺が出土した。

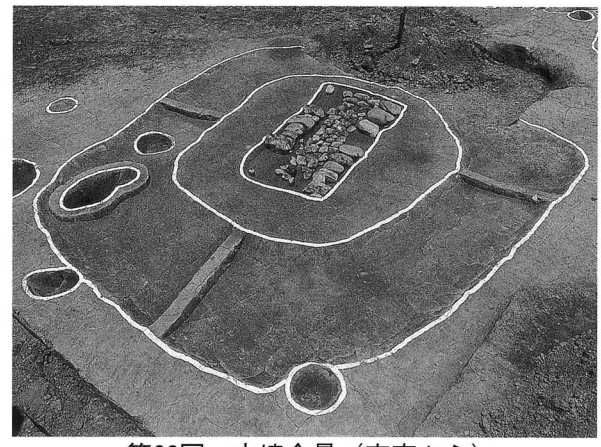
調査区中央で、長さ15ｍにわたって南北溝が検出された。幅2.2ｍ深さ74㎝の直線的な深い溝で、奈良時代の須恵器・土師器・製塩土器などが出土した。埋土が茶褐色粘土のブロック状の固まりで埋っているため、人力で埋められたと考えられた。

３．まとめ

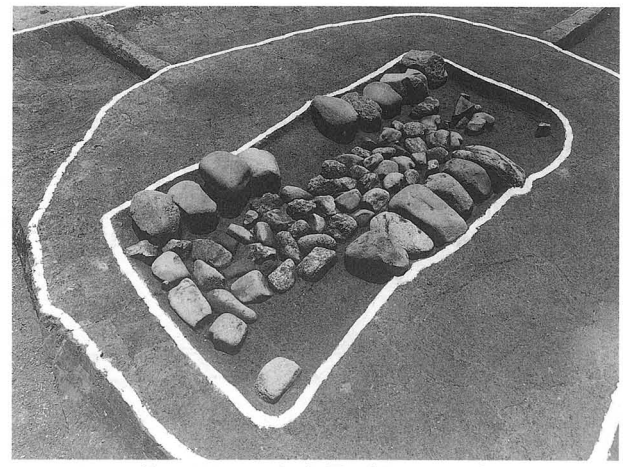
今回、富田林市域の石川左岸段丘上で、初めて古墳時代後期の小方墳が発見された。

大きな奈良時代の溝が検出されたが、隣接する粟ヶ池の築造とも関連するような溝と考えられた。

第21図　調査区遠景（西から）



第22図　古墳全景（南東から）



第23図　石室全景（北西から）

深井清水町（ふかいしみずちょう）Ｃ遺跡（０４０１０）

（１）堺市深井清水町
（２）主要地方道下石津泉ヶ丘線立体交差事業
（３）廣瀬雅信

はじめに

当遺跡は、平成14年度に実施した試掘調査で新たに発見された遺跡で、泉北丘陵の北側縁辺部にあたる。調査地付近の標高はT.P.＋30ｍ前後であるが、開発に伴って旧地形が大幅に改変された結果である。

付近には深井清水町Ａ・Ｂ、深井畷池遺跡など、奈良・平安時代の遺跡が知られ、広範囲には陶邑窯跡群の一角でもある。

遺構と遺物

遺跡範囲に計画された５基の橋脚のうち４基についてトレンチ調査を実施した。橋脚番号から、Ａ１、Ｐ14～16区と呼ぶ。うち３基は谷の斜面あるいは溜池の中と考えられ、削平を受けていたり滞水堆積であったりして、出土遺物も古墳時代から中世の土器細片が混在する状況であった。

一番北側のＰ16区のみが舌状台地上にあたると考えられ、２ｍ近い盛土の下に旧耕作土を介して古墳時代の遺物包含層と遺構面が良好に遺存していた。遺構面の標高は、T.P.+28.1～28.3ｍ前後で、２か所の掘立柱穴と溝2条が検出された。

柱穴は柱痕跡径15㎝程度の小規模なもので、長方形ないし不定形の堀方を持つ。検出面からの深さは60㎝ほど残っていた。

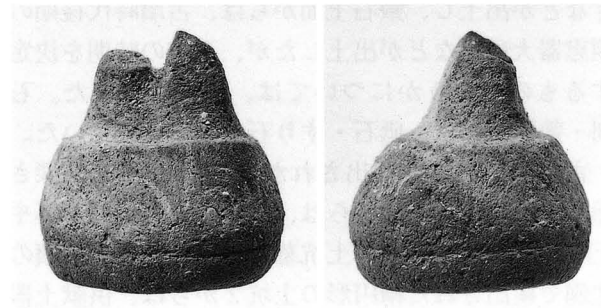
溝は湾曲する南北方向の溝で、６世紀末から７世紀前半の須恵器、土師器が多量に出土した。重複関係があるものの、相互に接合した資料がかなりあることから、ほぼ同じ時期と思われる。

特殊な遺物として、溝１から出土した秤の錘である「権」形土師質土製品がある。

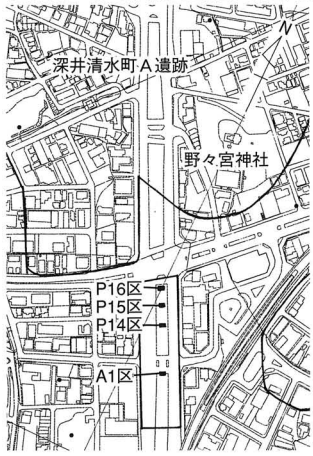
※参考資料：大阪府教育委員会2005「深井清水町Ｃ遺跡」（大阪府埋蔵文化財調査報告2004－５）

第25図　調査地全景

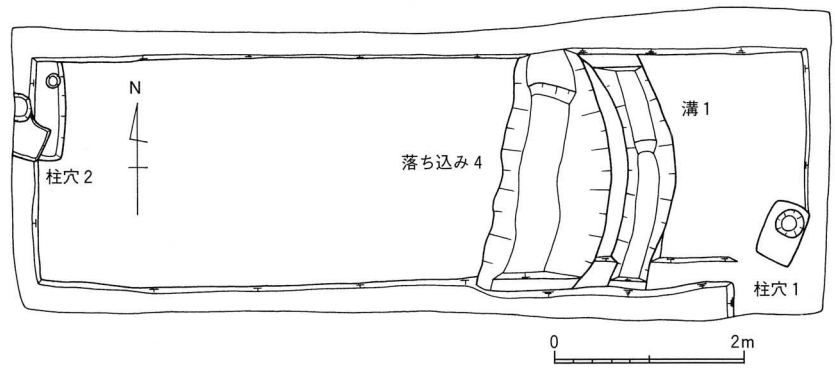
第26図　Ｐ16区（東から）



第27図　「権」形土師質土製品（原寸）



第24図　調査区位置図



第28図　Ｐ16区平面図

赤山古墳群（０４０１２）

（１）岸和田市尾生町

（２）一般府道春木岸和田線道路整備事業

（３）藤沢真依

はじめに

赤山古墳群は岸和田市岡山町に所在する古墳群で、行基の開発で有名な久米田池の南に位置します。南から伸びてくる丘陵先端にあり、ここからは段丘や低湿地が続くため視界を遮るものがなく大阪湾を一望できます。今回の調査は、尾生地区区画整理事業に伴う周辺整備の一環で道路が付け替えられることになり、古墳群の南端を削り取ってしまう工事に先立って平成16年６月15日から始め、平成17年3月に終了しました。調査対象面積は2,040㎡で、5本のトレンチを設定し、古墳があるかどうかを確認することにしました。

調査結果

道路用地内に直径約10ｍ、高さ約２ｍの高まりが２箇所あり、ここから調査用の幅１ｍのトレンチを５本設定した。第１トレンチは東北に位置する高まりから南に28.0ｍ、第２・３・４・５トレンチは南に位置する高まりから東北東方向に26.7ｍ、西方向に20.5ｍ、北方向に7.5ｍ、南方向に8.0ｍである。

第１トレンチは、北端の高まり部分が表土、黄色粘土、黄茶色砂礫混じり土となる。南半部が表土、黄茶色砂礫混じり土となる。中央部が表土、黄色粘土と黄茶色砂礫混じり土の再堆積土、黄茶色砂礫混じり土となる。黄色粘土は黄茶色砂礫混じり土の上に堆積していた土で、南のほうがすでに削り取られているようである。

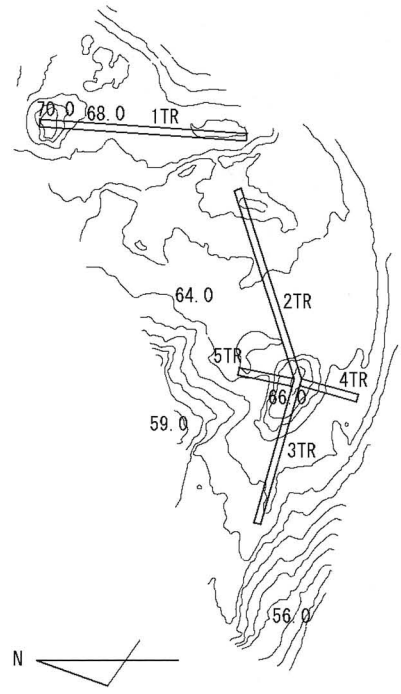
第２トレンチは、東・西端部が表土、黄茶色砂礫混じり土となる。中央部分は表土、灰白色砂となっている。灰白色砂は西端部の黄茶色砂礫混じり土の下に続いていく。

第３トレンチは、東端高まり部分が表土、黄茶色砂礫混じり土、斜面部分が表土、灰褐色土、茶色砂礫混じり土となっている。灰褐色土から須恵器小破片が１片出土した。明確ではないが、奈良時代の双耳壺らしく、蔵骨器の可能性が考えられる。

第４・５トレンチは表土、黄茶色砂礫混じり土となる。

表土直下はほとんど山土であり、高まりと高まりの間は相当に削平されているようであり、高まりはそのままで古墳ではないが、古墳であった名残である可能性は捨てきれない。

第29図　調査位置図



第30図　調査区配置図

大町（おおまち）遺跡（０４０１３）

（１）岸和田市大町地内
（２）府営久米田第２住宅建て替え
（３）三木　弘

平成15年度に続き、府営久米田第２住宅建て替えに伴う発掘調査を実施した。本年度の調査は、建て替え予定地内の西縁にあたる、住棟部分１カ所（１区）と設備棟部分１カ所（２区）である。

１区の調査成果

１区では厚さ約80㎝の盛土下に約20㎝の厚さの旧耕作土が全面に広がり、その下で遺構の検出が可能となる。検出されたのは溝、土坑、小穴、自然流路などである。

溝のうち、調査区のほぼ中央で検出されたものは、検出長16ｍ、上辺幅1.1～2.0ｍを測る。灰白色砂を基本とする覆土からは、弥生後期や古墳前期の土器が出土したが、いずれも細片であり、２次的混入の可能性が高い。この溝を境に、後述の連接する長方形土坑群は北方に広がらず、しかもそれとはほとんど重複しないことから、溝と土坑群は関連すると考えられる。

土坑には、上述した連接する長方形の一群のほか、不定形のもの、炉跡とみられる掘り込みを有するものなどがある。

連接する長方形土坑群は、上幅はおよそ１～２ｍ、長さを把握できるものは最長で7.8ｍ、最短で0.9ｍ、深さは検出面から約50～80㎝であり、南北方向に直列しつつ群集する。自然流路を僅かに切り込むものもあるが、基本的には重複しないよう掘削されている。この土坑群の覆土はいずれも近似しており、礫を多く混在する褐色系の砂質土である。出土遺物の大半は弥生時代から古墳前期の土器片だが、染付磁器も認められる。こうしたことから、近世代に、シルト面を礫混じりの砂質土に置換え、耕作物の植付けを行ったとみられる。

不定形土坑は主として調査区の北半に分布している。長方形土坑群と異なり、底面の起伏が激しく、底の粘土層がブロック状に残る状況が認められた。不定形土坑には形状、規模の規則性はないが、調査区内にあっては比較的良質の粘土が広がる範囲で掘削されている。覆土内から弥生時代や古墳前期の土器片が出土したほか、近代以降の陶器、磁器などもあり、明治期以降に当該地周辺で盛んに行われた粘土採掘の痕跡と推測される。

調査区中央やや北寄りでみつかった長方形土坑は長辺4.3ｍ、短辺2.6ｍで北西隅が0.8ｍほど張り出す。現状の壁高は10㎝以下でしかなく、上部がかなり削平されているとみられる。床面の西半には炉跡とみられる炭化物を含む小穴３基が並び、東半は灰色粘土によって貼床がなされている。覆土内から弥生時代および古墳前期の土器片が100点以上出土したが、須恵器や古代以降の遺物は認められなかった。

自然流路は調査区西半で２条検出された。そのうち東寄りの１条は調査区を横断するように延び、上辺幅約６ｍ、深さ２ｍほどである。礫を混入する砂や砂質土、あるいは粘土が堆積し、弥生後期および古墳前期の土器が多量に出土した。この流路がほぼ埋没したのは布留期と考えられる。

西寄りの流路は西岸が調査区外にあるが、現状幅は10ｍを越えており、東寄りの流路よりも広い。しかも、それに比べて量は少ないが、弥生時代から古墳前期の土器が同様に出土しており、近接時期にこの流路も埋没したのであろう。

２区の調査成果

２区の盛土、旧耕作土の在り方も１区とほぼ同様で、それらを除去すると連接する長方形土坑群と自然流路が確認できた。

長方形土坑群は１区のものと同方向に延び、同じ性格・形成時期を考えることができる。

流路は北岸が調査区外にあるが、現状幅は９ｍを越える。上層からは弥生土器の小破片が数点出土したが、中・下層からの出土遺物はなく、埋没時期を決めることはできない。

第31図　１区全景

禁野本町遺跡（０４０１４）

（１）枚方市禁野本町地内
（２）府営枚方住宅建て替え
（３）井西貴子

はじめに

本遺跡は、枚方市禁野本町に所在し、弥生時代から中世までの複合遺跡である。位置的には枚方市域の西側、淀川左岸、枚方市街地の北東にあたる。枚方市域の西側の立地は、標高20～50ｍの台地地形で、縁辺は河岸段丘となり淀川沿岸の低地に続く。周辺には百済王氏に関連すると考えられる百済寺跡（昭和27年国の特別史跡に指定）・百済遺跡（南約500ｍ）が存在する。本遺跡に関しても多数の調査が実施されており、弥生時代から古墳時代前期の竪穴住居、古墳、井戸、平安時代から中世の掘立柱建物、墨書土器など多数の遺構・遺物が検出されている。

調査成果

標高　T.P.32.0ｍ

地形　台地上。地形は西・南側に落ちる。

基本層序　府営住宅整地土（約30㎝）、旧耕土・床土（約25㎝）は、調査区全体に堆積する。包含層は、調査区南側で約10～20㎝を確認、下層で弥生時代前期から古墳時代初頭、上層で古墳時代から平安時代の遺物を検出。旧地形の窪みに堆積したもの。最上層は、部分的に旧耕土ブロックが確認されるので府営住宅建設時の整地土である（遺物の出土なし）。

遺構　全体的に遺構面上面の削平が著しく、遺構の残存状態は非常に悪い。時期は、出土遺物、堆積土層、包含層の層序から判断した。

弥生時代　円形竪穴住居２基

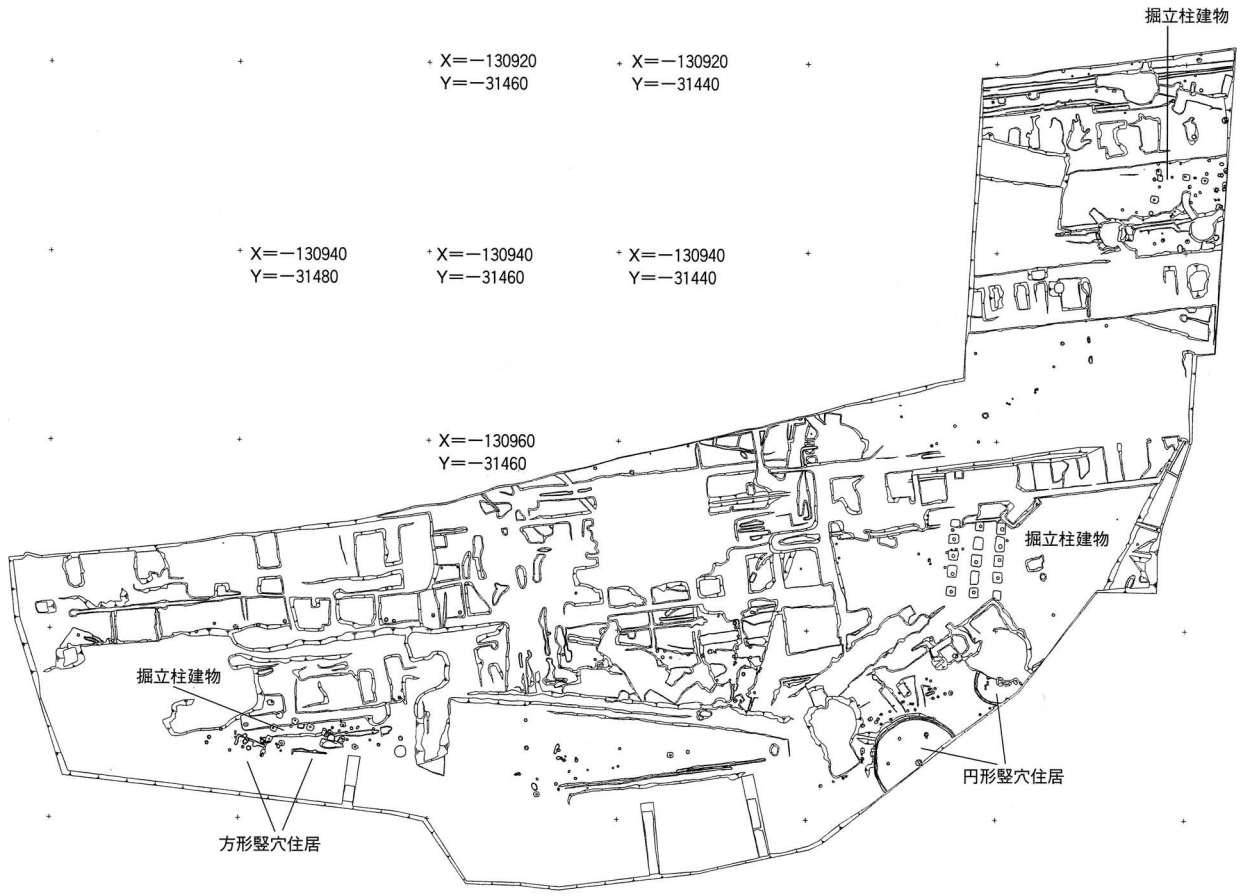
古墳時代　方形竪穴住居２基

平安時代　掘立柱建物柱

総柱建物→２×４間。遺物の出土なし。堀方0.8～1.4ｍ×0.6～1.2ｍ。深さ0.3～0.4ｍ。柱径0.15～0.2ｍ。柱抜き取り穴が確認されたものもあり。

中世　掘立柱建物

遺物　弥生時代前期から中世。



第32図　禁野本町遺跡遺構全体図（Ｓ＝１／800）

板原（いたはら）・豊中（とよなか）・府中（ふちゅう）遺跡（０４０１７）

（１）和泉市肥子町地内
（２）和泉中央線立体交差
（３）亀島重則

調査地はJR阪和線の西側から、国道26号線との交差点までの区間である。JR阪和線に接する現道の北と南の用地（第１・２調査区）、交差点に接する用地（第３調査区）、南側の肥子池公園に接する用地（第４調査区）である。調査面積は1,038㎡。

第１調査区北半部の第１面で、掘立柱穴群・溝・土坑などが検出された。調査区北辺に沿って古墳時代の溝が２条走る。掘立柱柱穴は掘方30～40㎝大を中心とするもので、重複関係から溝より後出する。その形状・大きさから中世のものと推定され、建物あるいは柵列と考えられる。

南半部では、溝・土坑・小穴の他、中央部を２条の溝が走る。北側の溝が幅1.2～1.3ｍ、南側が1.5ｍ以上を測る。不整楕円形の土坑からは、須恵器・土師器が出土しており、古墳時代中期頃と推定される。他に、土坑・小穴が点在する。

第２面の北半部中央北寄りで、幅約４ｍの流路が東西方向に走る。この流路の両側で落ち込み・土坑・小穴などを検出した。流路南側の南東寄りでは、不定形土坑を中心に土坑がかたまって検出された。焼土塊・スミ粒が少量出土したが、焼土塊の大きなものや量も多い土坑もある。遺物は全体に少ないが、土器から縄文時代に属すると考えられる。中央部付近で、柱根が遺存する例がある。

第２調査区第１面上位で、東壁寄りで、隅円方形～楕円形の掘立柱穴を幾つか検出した。柱通りの認められる箇所が幾つかあり、建物あるいは柵状の施設を想定することができる。柱穴の形状や規模からいずれも中世期と考えられる。

第１面下位では、調査区の北部と南部で流路を検出した。北部では蛇行しながら、南へ一部分岐し、東からの流路と合流する。南へ分岐する流路一帯には足跡が検出された。南部では南寄りに大きく蛇行する。

第２面では、調査区中央部を中心に掘立柱穴・小穴・土坑を検出した。

第３調査区第３面では、調査区を斜めに縦断する溝が２条検出された。南寄りを走る溝は幅約２ｍ、深さ約0.5ｍ。北側に併走する溝は幅約1.2ｍ、深さ約30㎝。溝内からは土師器・須恵器片が出土し、古墳時代中期の掘削とみられる。

第４面では、北へ向かって落ちる砂礫層の確認をした。昨年度の調査で検出した弥生時代終末から古墳時代前期の河川の続きと考えられる。TP15.0ｍ付近で楕円形土坑１基を検出した。坑内から縄文後期浅鉢形土器片が固まって出土した。

第33図　第３調査区東部

第34図　土坑（縄文後期）

中畑（なかはた）遺跡（０４０２２）

（１）高槻市大字中畑地内
（２）農地還元資源利活用事業（樫田地区）
（３）奥和之

１．はじめに

中畑遺跡は、高槻市の市街区域から約12㎞離れた大阪府の北東部、北摂山地の穏やかな山々に囲まれた標高350ｍ前後の小規模な山間盆地（中畑盆地）に立地する。中畑遺跡を含め周辺の遺跡については、当該事業に伴い過去５年間発掘調査が行われ、平成16年度で調査は終了した。

今年度の調査は、中畑南地区、中畑東地区を中心に行い、調査面積は3,340㎡を数える。

２．調査の成果

調査地区は、中畑南地区と中畑東地区に大きく分けることができる。各地区の遺跡の概要は以下の通りである。

中畑南地区　南の山塊から北に下る丘陵縁辺部に広がる調査区（11区）である。調査区は、水田造成時の削平によって上下２段に分かれる。検出した遺構は、平安時代と推定される建物４棟などで、主に上段において検出した。建物の柱穴内から黒色土器が出土している。

中畑東地区　12区から15区までの調査区で、東の山塊から中畑川に下る丘陵縁辺部下段上に存在する。検出した遺構は、屋敷地を囲む溝と推定される溝、柱穴、溝、炉跡と推定される焼土、杭跡などを検出した。遺構の時期は、平安時代から中世を中心とし、顕著な遺構は、南側に集中している。

３．まとめ

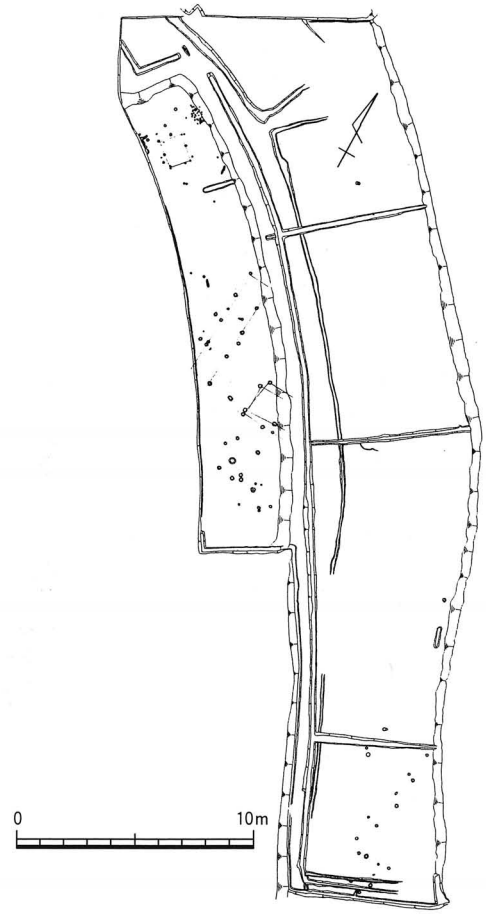
当初、昨年までの調査の成果から想定していた遺跡の上限の時期は、中世と考えていたが、今回の調査において平安時代に遡る遺構が検出された。また、遺構は検出しなかったが、奈良時代末期から平安時代初期と推定される遺物も出土している。これらによって、極小規模な盆地である中畑盆地の開発は、田能盆地と期を同じくして開発が進んだことが明らかとなった。

これらにより田能および中畑などのいくつかの小盆地によって構成される樫田地区は、京都と近く、遺構・遺物の初現が、奈良末から平安時代初期であることから、京都盆地の開発（平安京遷都）と深く拘わっていた可能性を考えている。

当該事業による発掘調査の結果、本遺跡を含め数々の調査成果を得られ、徐々にではあるが北摂山地内の遺跡の状況が明らかになってきている。

これらの調査成果は、この周辺の歴史を考える上で、また北摂山地の開発の状況を知る上で貴重な資料を提供したものといえる。

第35図　11区全景（北西より）



第36図　11区平面図（Ｓ＝1／250）

金岡西遺跡（０４０２３）

（１）堺市金岡町

（２）都市計画道路南花田鳳西町線道路整備事業

（３）藤沢真依

はじめに

金岡西遺跡は堺市金岡町に所在する遺跡で、平成10年の試掘調査で新たに発見され、平成11・12年度に調査を行いました。今年度は平成16年７月１日から512㎡を調査し、平成17年３月に終了し、発掘調査は完了しました。

調査結果

道路用地内に３箇所の調査区を設定しました。第１調査区は底辺約28ｍ、高さ約17ｍの平行四辺形で、面積は476㎡です。第２調査区は長辺10ｍ、短辺３ｍの長方形で、面積は30㎡です。第３調査区は長辺５ｍ、短辺３ｍの長方形で、面積は15㎡です。

第１調査区

基本土層は２層で、黒色土（耕作土）0.3ｍを除去すると黄白色粘土である。遺構は調査区北辺部で幅約0.3～0.5ｍ、延長約７ｍ、深度0.2ｍの溝を検出した。溝の埋土は褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

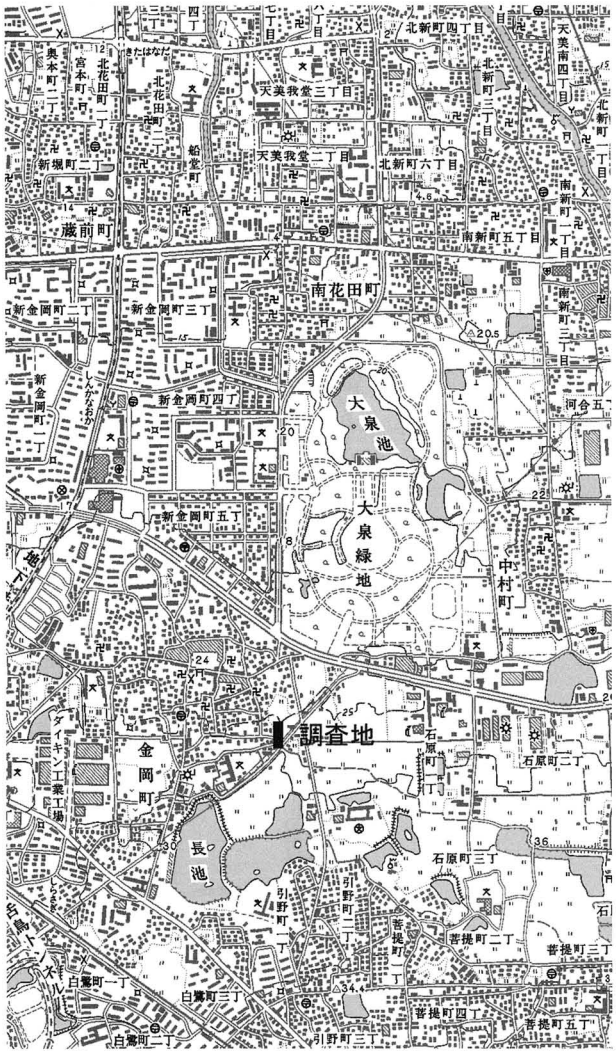
第２調査区

基本土層は３層で、盛り土0.45ｍ、黒色土（耕作土）0.3ｍ、を除去すると黄白色粘土である。遺構は検出しなかった。

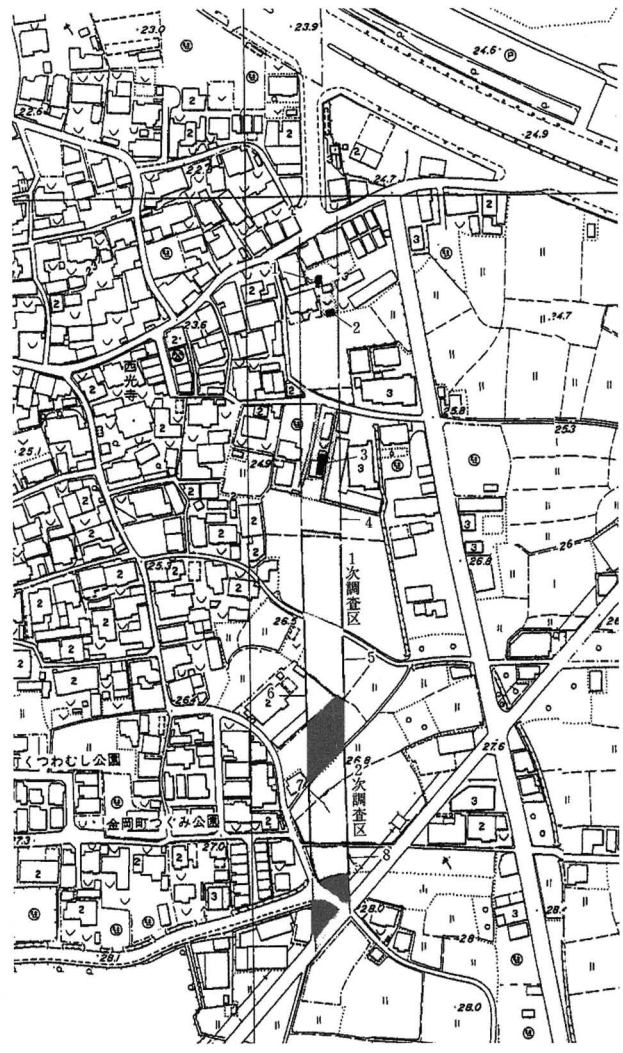
第３調査区

基本土層は３層で、盛り土0.4ｍ、黒色土（耕作土）0.3ｍ、を除去すると黄白色粘土である。遺構は調査区西北角部で直径0.5ｍの土坑を半分だけ検出した。遺物は14世紀の瓦器片と土師器片を出土した。

今年度の調査で金岡西遺跡の調査は完了である。



第37図　調査位置図



第38図　調査区配置図

余部（あまべ）遺跡（０４０２４）

（１）堺市美原町北余部
（２）府道（新）大阪狭山線建設
（３）阿部幸一

はじめに

この遺跡では、府道美原泉大津線（阪和道）や府営住宅の建替え工事などに伴って発掘調査が実施され、古墳時代以降の各時代の遺構・遺物が検出されている。特に平安時代から室町時代頃までは、丹南地域の一画にあり、や銅の鋳物を製造していた河内鋳物師の故地として知られており、鋳造遺構や溝で区画された屋敷地、城郭跡等の多数の遺構、多量の土器、瓦質護摩鉢、瓦、炉壁やスラグなどの遺物が出土している。

府道大阪狭山線予定地の調査は、平成15年度に阪和道の南側の中池南側で実施し、平成16年度は府道美原泉大津線の北側で調査を行った。

調査地西側では平成10年～平成14年まで府営住宅の建て替えに伴って発掘調査されている。

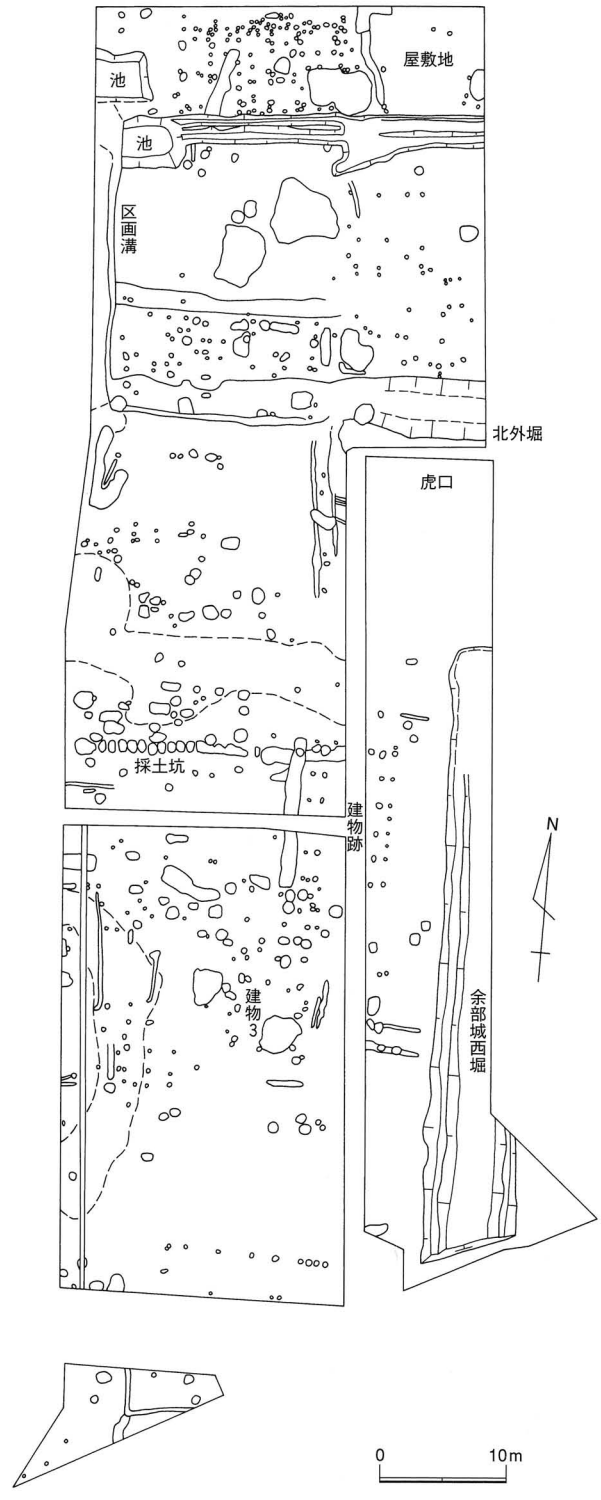
調査の概要

調査地は水田と水田に盛土して戸建住宅となっていたところで、標高は旧水田面で44ｍ～43ｍを測る。基本的な層序は、水田耕土、床土の下に中世の遺物を含む黄灰色土、褐灰色土、地山の黄橙色土で、黄灰色土褐灰色土は南端では数㎝程度であるが、北端で検出した屋敷地の南側では40㎝以上を測るが包含する遺物は少ない。

検出した遺構としては鎌倉時代の溝で区画された屋敷地、土取坑や性格不明の土坑、土器埋納ピット、南北朝から室町時代に営まれた余部城の西、北堀などがある。

屋敷地は池を移伴う幅約１ｍの溝で区画された屋敷地と、その約20ｍ外側に幅30～40㎝の小溝で区画した二重構造となっている。上層農民の屋敷に前庭や小作農民層の家や納屋が付随したものと理解している。この他、区画施設を持たない掘立柱建物を数棟検出している。

余部城は地積図に残る「城ノ山」などの小字名から存在が推定されていたもので、府道美原泉大津線建設に伴う調査で堀跡が検出された。今回西堀と北堀、北堀の10ｍ北側に幅７ｍの堀を検出した。確認された堀の規模から城の大きさは約70ｍ四方で、北側に外堀を掘って虎口にしていたと考えられる。



第39図　遺構全体図（S＝1／600）

寺田（てらだ）遺跡（０４０２５）

（１）和泉市寺田町
（２）府営和泉寺田住宅建替え
（３）藤澤真依・杉本清美

はじめに

寺田遺跡は、北の槙尾川と南の松尾川に挟まれた観音寺山丘陵の西南側に広がる河岸段丘上に位置する遺跡で、平成14年に実施した試掘調査によって確認された新規発見遺跡である。

今回の調査は、府営和泉寺田住宅建て替えに先立つ発掘調査で、住棟部、集会場などの関連施設を１区・２区、住宅外周道路、歩道設置部分を３区・４区・５区とした。

調査の概要

調査区の南側では、竪穴住居を７軒以上、掘立柱建物を７棟以上検出、確認した。

竪穴住居は、おおむね１辺約５ｍの隅丸方形状の平面形を呈し、主柱穴が４本ものと伴わないもの、周壁に沿って溝がめぐるもの、板状の痕跡がめぐるものなどが見られた。かまどは移動式かまどを使用していたと考えられる。住居の主軸方向はほぼ南北を示すが、中には方向が異なるものも見られた。主軸方向が南北を示す竪穴住居が方位の異なるものを切って建てられており、時期差がうかがえる。住居内からは、土師器長胴甕、甑、高坏、砥石、滑石製管玉などが出土するものと、須恵器坏身、坏蓋などを伴うものがある。

掘立柱建物は、柱間が２間×２間の総柱の建物と、２間以上となる建物があるが、いずれも主軸は南北方向を示す。柱穴内からは、須恵器坏、甕、土師器、瓦器碗などの細片が出土した。

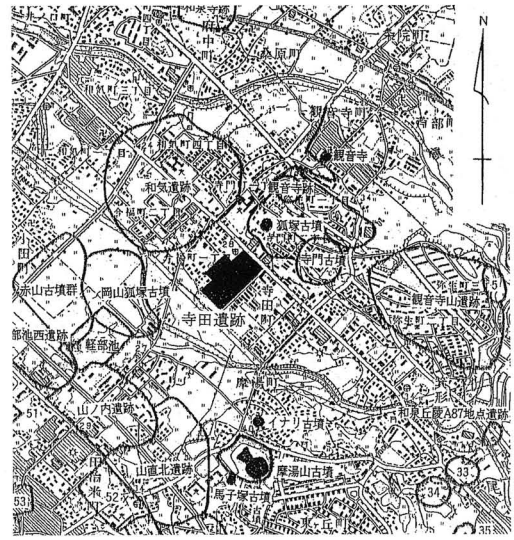
調査区の東側から西側に横断する河川跡は、竪穴住居や掘立柱建物で構成される古墳時代の集落域の北辺に位置する。

河川内からは遺物が大量に出土した。最下層からは４世紀代の土師器小型丸底壺、二重口縁壺、甕、高坏、下層付近では短脚高坏、把手付坏、初期須恵器などが含まれていた。上層付近では６世紀代の須恵器や土師器などが大量に出土した。また、滑石製の臼玉や有孔円盤、紡錘車のほか、鉄滓、砥石など鍛冶に関連する遺物も出土している。

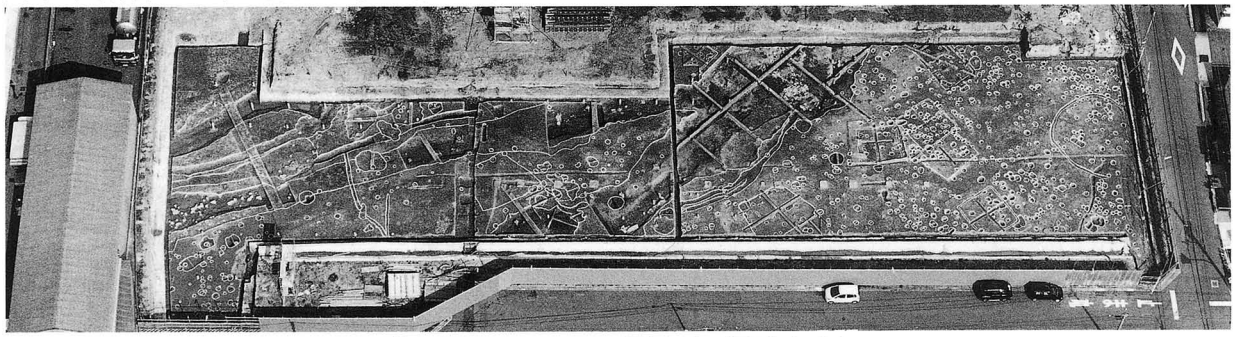
まとめ

調査の結果、寺田遺跡のおける集落の変遷をうかがうことができた。観音寺山遺跡などの高地性集落が姿を消す弥生時代末頃から古墳時代前期頃に最初の集落が営まれ、４世紀代の土師器を伴う不定方向を示す竪穴住居の集落から、南北方向を意識した竪穴住居と掘立柱建物で構成される集落へと移行し、陶邑で本格的な須恵器生産が始まる５世紀以降になると掘立柱建物のみで構成される集落へと変り、一部河川が埋まった６世紀後半頃には井戸を伴う掘立柱建物からなる集落へ続くと考えられる。

今回検出された遺構は、集落域北端の一部であり、周辺の地形から集落の中心は南から西側に広がるものと思われる。



第40図　寺田遺跡位置図



第41図　１・２・３区全景（西南から）

福井（ふくい）遺跡（０４０２７）

（１）茨木市西福井２丁目
（２）府営西福井住宅建設
（３）横田　明

はじめに

調査区のある茨木市西福井は、周囲に紫金山古墳、海北塚古墳などの学史上名高い古墳があり、注目される地域である。2001年、府営西福井住宅の建て替えに伴う発掘調査（１次調査）により、弥生時代後期集落に関連する溝や土坑、古墳時代後期の掘立柱建物、竪穴住居、溝、自然河川、平安時代の溝、掘立柱建物跡などが発見されている。この時点で弥生時代～平安時代にまでおよぶ遺構・遺物の存在が確認されていた。今回の第２期建て替え工事は１次調査区の東側にあたる。遺構・遺物の存在が確実であることから、今回、２次調査を行うこととなった。

調査の概要

調査対象地に２本のトレンチを設定した。

第１区　北側の南北トレンチで、途中、折れ曲がって東側に開く形である。盛り土は2.5～３ｍにおよぶ。この下が旧耕作土である。この地点は全面に谷が入っているようであり、粘土と砂が互層で深いところでは厚さ１ｍ近くになる。灰色から有機質を含む黒色の粘土層が主体で、上方厚さ50㎝くらいまでは近世の染付けを含んでおり、下方は瓦器を含んでいる。谷底で一箇所、須恵器のみを含む溝状の落ち込みを検出しているので、これのみは古墳時代の遺構とできるかもしれない。

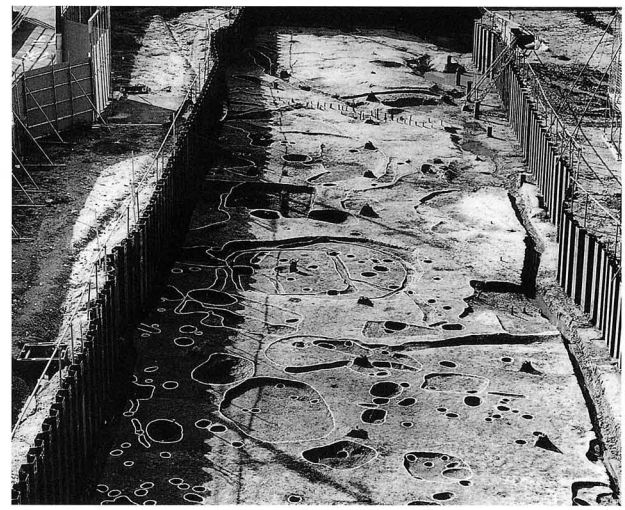
第２区　南側の東西トレンチである。ここでも約２ｍの盛り土を除くとその下から旧の耕作土が現われた。耕作土からさらに40㎝くらいで地山層を検出した。２区で検出した遺構は地山層をベースに形成されていた。遺構は時期的には弥生時代後期中頃が主体となる。それ以外の時期については、包含層からの遺物出土はあったものの遺構の検出はなかった。

弥生時代の遺構についてであるが、溝、土坑、ピット、竪穴住居などが主体となる。この中で特筆すべきは竪穴住居である。後世の削平によって周溝部分のみ残存するものが多いが、調査区中央部付近で計５棟検出されている。これを竪穴住居１～５とすると、竪穴住居１～３は互いに重複し、４と５は独立している。竪穴住居１は円形で直径８～９ｍ、２はやや扁平な６角形乃至８角形で長径８～９ｍ、３は長方形で４×５ｍ、４は長方形で４×3.5ｍ、５は円形で直径８ｍである。このうち１は２に切られており、さらに２が３に切られている関係である。これらの関係を整理すると、１と５、そして３と４が同時期になる。調査区外にも存在する可能性も考慮すると、一時期最低２棟がセットになって竪穴住居が営まれた様子が伺える。

また調査区西側で検出された自然河川は、続き部分が１次調査の折にも検出されている。西から東へとながれて、調査区中央付近で北へ向きを変え、調査区内から姿を消す。上層には中世遺物を含むが、下層は弥生土器が主体となる傾向がある。

まとめ

現況から調査対象地域をみると周囲とさほど比高差はないように見える。しかしながら、これは住宅造営の際の盛土の所産であり、実際には２ｍ以上の差があるのである。それに間には東西方向の谷がはいっており、谷と谷ではさまれた間の微高地に住居跡が散在しているのである。



第42図　第２区全景

第43図　竪穴住居１～３

桑原（くわのはら）遺跡（０４０４０）

（１）茨木市桑原地先

（２）安威川ダム建設事業の残土処分地「桑原地区」内

（３）岩崎二郎・一瀬和夫・堀江門也

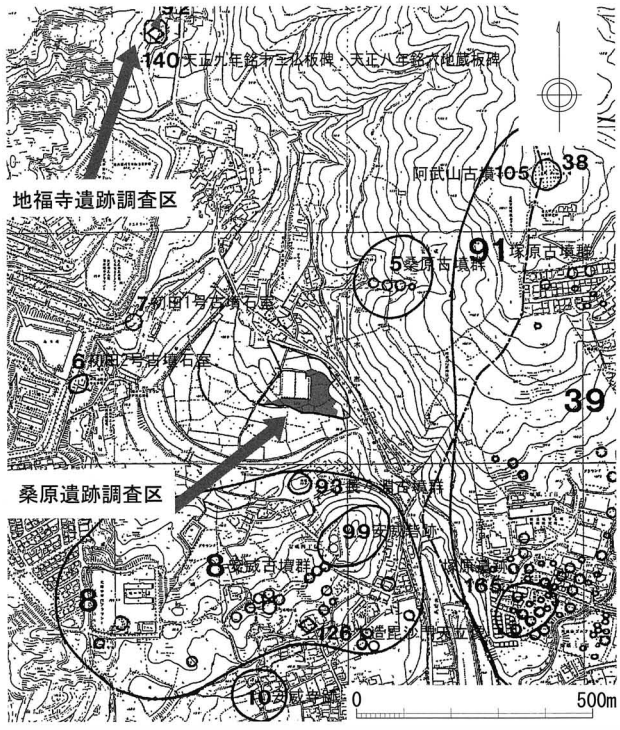
はじめに

安威川が丘陵部から平野部の段丘部にぬける上流側は大きくＳの字に曲がる。その西側に貼り出す微高地上に本遺跡はあたる。

遺跡から東側に急上昇する高槻市側の丘陵上には７世紀の阿武山古墳やその南斜面に広がる６世紀を中心とした群集墳である塚原古墳群が存在する。一方、安威川をはさんだ西側の対岸にも７世紀の初田古墳群があり、本遺跡は飛鳥時代前後の古墳に囲まれた特異な歴史的環境をもつ。

ダム建設事業の残土処分計画地のうち、盛土が著しい微高地の東半分の箇所を中心に、平成15年に試掘調査を行った。その際、左岸沿いの低い面は川の氾濫を受けていたものの、主に北側の丘陵沿いでは弥生土器、土師器、瓦器などの遺物が出土した。特に、出土遺物のあった範囲の北東端において、鎌倉時代後半から室町時代初頭の瓦器・土師器が出土する土坑・溝を検出している。

今回の調査では、遺構・遺物を確認した用地のうち、主に残土盛土の多い南東部の5180㎡の発掘調査を実施した。



第44図　桑原・地福寺遺跡調査区位置図

調査の概要

谷

調査区北東側は丘陵に向かって、雛壇が急上昇するが、その変換線にそって幅７～10ｍの谷を検出した（東谷）。谷そのものが遺跡の東限となり、北東の阪急バス停桑原橋付近にのびていく。これは、永く西側に展開する遺跡の水源となっていたと考えられる。谷の上層からは南北朝頃の瓦器椀・土釜が出土し、埋没年代がこれにあたり、その後は、周囲の地山の礫などで埋め、一段低くなった谷水田へと整備されていく。また、上層下では９世紀末・平安時代前半期の内面黒色土器杯や獣骨類が出土する。

この谷の埋没後、遺跡北東部の付け根部分から南中央に向けて新たな谷が開き、巨石が押し流される土石流のようなものに見舞われたようである（中谷）。この区間は小規模な雛壇の水田ないし畑が規模を大きくしていく過程を示す耕土層がある。多いところでは５面は確認できる。耕地の拡大はその周囲においても見られ、地山の礫層を削平単位が大きくなる新しい時期のものほど地目境に石組みの暗渠や石垣列といった石を多用した構造物が備わり、増加していく。

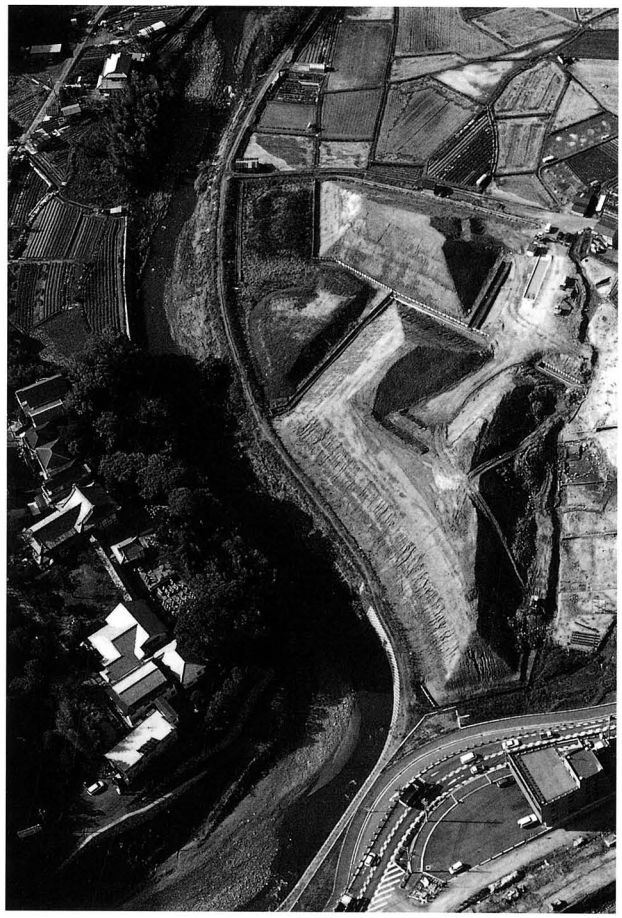
掘立柱群

そうした耕作地の削平を逃れた地点については、南東部、南東方向に舌状にのびる微高地上で掘立柱群が検出できた。一部の柱穴Ｐ２・10からは内面・両面黒色土器が出土し、少なくとも９・10世紀の平安時代前半期に建物が存在したことが分かる。

一方、北端でも掘立柱群が確認できる。これが集中する地点には黒味がかった灰褐色シルトを基調とする整地層及び覆土が地山に貼りつくように存在し、土中より瓦器椀等の14世紀末・南北朝期の遺物が出土する。同様な整地層、覆土は調査区南西でも認めることができる。それは北側の未調査区に沿って東西に広がる。

環濠状溝群

そうした整地層が残るそれぞれの地域の外縁部に沿って数条の溝が確認できた。北端では東谷上流部が西へ屈曲する部分から南に向かって、少なくとも３条の南北溝がある（溝１・２・４）。中谷の急流はこの溝群全体のくぼみに誘導されたであろう。また、東谷に平行して南側に東西溝３を検出した。整



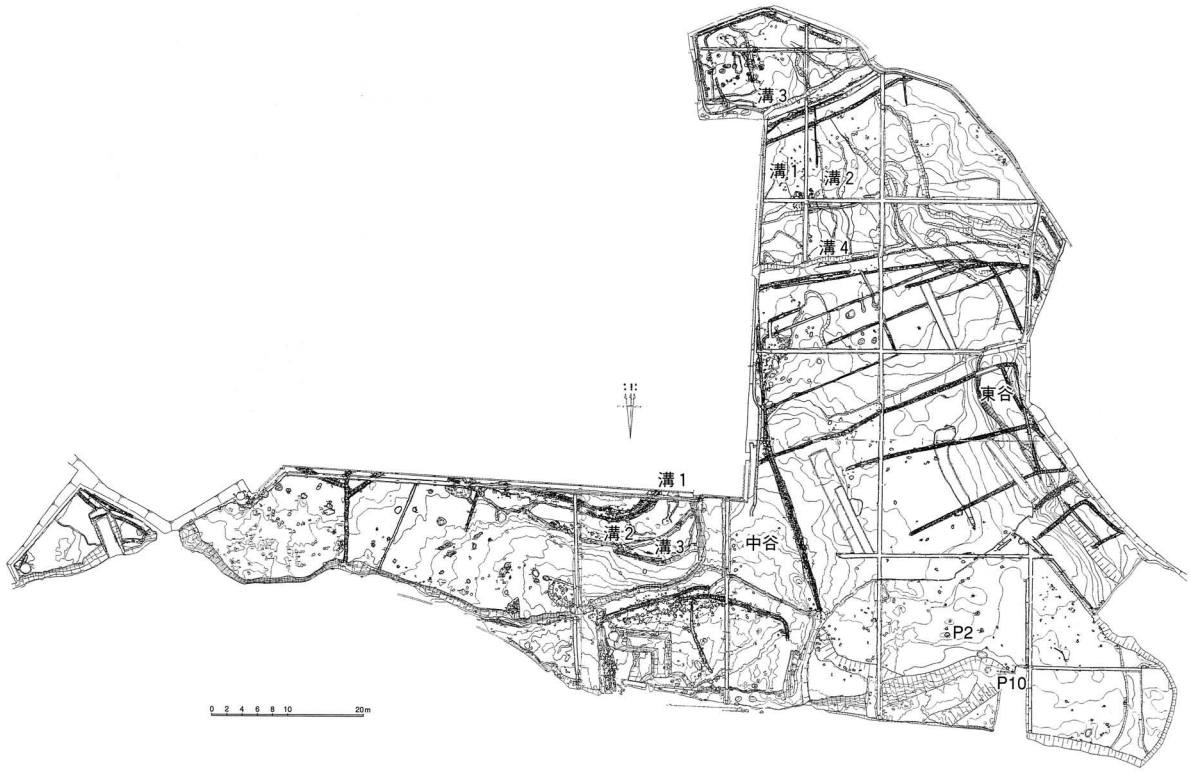
第45図　桑原遺跡航空写真

地層の中心部はそれらに囲まれた南西方向にあると目される。この付近から陶棺片と考えられるものが出土する。

さらに、南側の整地層も平面Ｌ字形を呈する３条の溝群に囲まれるように存在し、（溝１～３）北側の未調査区へと続く。溝１の下層では完形に近い須恵器横瓶が、上層では14世紀末・南北朝頃の瓦器椀が出土する。溝群の中にある土坑１からは７世紀中～後葉・飛鳥時代の須恵器杯身が出土する。

まとめ

上記にさかのぼるものは、庄内式甕形土器の古い段階のものがピットＰ６から出土する他、サヌカイト剥片の出土もある。すなわち、本遺跡は、試掘調査成果も含めて、弥生時代にははじまり、飛鳥時代と南北朝頃の溝に囲まれた集落の形成とともに、その間には平安時代前半期には中谷をはさんで掘立柱建物が営まれた。その後、２つの谷を中心として雛壇の耕作地がそれぞれの単位を拡大していき現在に至ったという過程が確認できる。



第46図　桑原遺跡調査平面図

地福寺遺跡（地福寺層塔）（０４０４１）

（１）茨木市桑原地先
（２）安威川ダム建設事業の用地買収箇所「地福寺」内
（３）岩﨑二郎・一瀬和夫

はじめに

対象地は山間部の主要地方道茨木・亀岡線の西側沿いにあり、道をはさんで東側に安威川が流れる。東に向かって貼り出す丘陵の南東鞍部に地福寺境内があり、その北西にある観音堂裏の急斜面をやや登った墓地内に層塔がある。この層塔は花崗岩製の石造五重のもので府指定である。総高200㎝。高さ28㎝・幅27㎝の軸部には、高さ18㎝の如来座像が四面に彫られ、基礎の西面には徳治參年(西暦1308年)銘があり、鎌倉時代末期のものと考えられている。

その塔を南西側150ｍに移設することから、地下遺構の存在を考え、まず24㎡の確認調査を行った。その結果、塔下から土師器が出土し、地福寺遺跡として、塔周囲にある平坦面を中心にさらに50㎡の発掘調査を行うことになった。

調査の概要

層塔周囲

層塔付近よりほぼ完形の一石五輪塔が22体、空輪もしくは空輪+風輪のみのものが５体、石碑が１体、計28体が土中より見つかった。

層塔下部及びその周囲において、木棺墓と横穴式石室をそれぞれ１基ずつ検出した。

木棺墓

木棺墓は層塔が置かれていた位置の下、中心をやや南よりにして、北西ー南東方向に検出した。現存で墓壙は現存規模3.3×1.67ｍ、深さ0.78ｍ、棺身は2.29×0.75ｍである。木棺陥没部下層より土師器甕が出土した。甕は本来、棺上に完形品が据え置いたと考えられ、９世紀、平安時代前半の年代が推測される。

横穴式石室

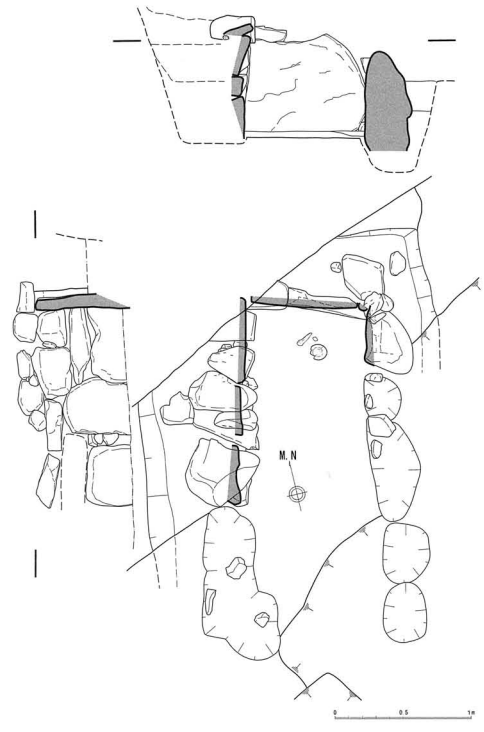
横穴式石室は塔の北側で検出した。その南西側半分と上部は近代以降の石垣と雛壇造成によって削平を受け、石室が残存する直上まで近代以降の瓦が出土した。玄室は現存長1.43ｍ、幅0.85ｍ、高さ0.89ｍである。南側の側壁石抜取り穴から、全長2.58ｍ、玄室長2.1ｍ程度、右肩袖の石室が推測できる。石室材は花崗閃緑岩を中心とし、0.8～1.0ｍの石を立てて基底石に用い、奥壁に板状の石を用いるのが特徴的である。上部の隙間に0.2ｍ程の礫を充填し、内側への倒れこみを防ぐ。その上は0.3～0.6ｍ程の石を横積みにする。墓壙は幅約2.1ｍで地山土に似た小礫を含む黄褐色土を裏込土としていた。

石室内北半部分の床面中央より土師器椀完形品が正位でそのすぐ北西側で鉄製品が出土した。土器より、７世紀後半の時期と考えられる。

まとめ

以上、石室は東側山頂にある阿武山古墳と似た時期にあたり、安威川をはさんだ両者の関係が注目されるとともに、山間部において連綿とした墳墓築造の実態も把握することができた。

第47図　木棺墓（手前左）、
横穴式石室（中央奥）検出状況



第48図　横穴式石室実測図

安威（安威城跡）遺跡（０４０４７）

（１）茨木市東安威地内
（２）主要地方道　茨木亀岡線　道路整備工事
（３）岩﨑二郎・一瀬和夫

はじめに

南北に走る道路の東側、旧本線部分の範囲にあたる2448㎡の対象地のうち、包含層まで掘削が達する部分を幅2.0ｍで発掘調査を行った。

南側の16-１区は南北に約123ｍの長さで、南に向きに1.1ｍ低くなる。北側の16-２区は約207ｍであり、同様な勾配で1.6ｍの差がある。前者は安威遺跡の北東端にあたり、南側は平成９・10年度に西側道路新設部分の全面発掘調査を行い、古墳時代竪穴住居群を検出した北端にあたる。ちょうど安威川をはさんだ東側には継体陵古墳がある。後者は平成15年度に古墳～平安時代の包含層が認められたことから、安威城跡の遺跡範囲を段丘端に沿い拡大した部分にあたり、安威・塚原古墳群、安威寺跡と近接する。

調査の概要

16-１区　道路盛土下には灰色シルトの旧耕土が残り、下層は残存に差があるものの中・近世の黄色粘土系、その下の上面では古代、下面では古墳時代後半期の灰褐色シルト、弥生時代後期～布留期の黒味のある砂礫層、そして地山の灰色礫層となる。下半は中央部にある谷から北へは下降する。したがって、南端は黒味のある砂礫層が削平気味で、５世紀後半を中心とする古墳時代の遺物がすぐに確認できるが、北へ向い古代・中世の土層をはさむ。

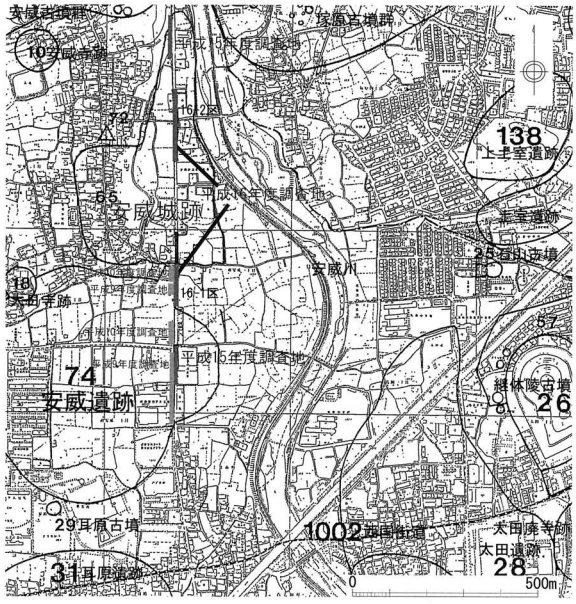
遺構は南側で南北溝、落込み状の土坑、中央の谷の埋没面で平安時代の溝・ピット。その上部にも瓦器などを含む中世以降の南北溝とピットがある。北側上部は中央より続く瓦器を含む溝、下に７世紀中頃の須恵器壺・杯身が出土する落ちがある。最も下部では、中央の谷の前身となる落ち３では庄内期の高杯脚部が出土する。

16-２区　旧耕作面が８段の雛壇に分かれる。全体に下部は南へと下がり、現況以上に勾配が急になる。旧耕土・床土下には下へ中・近世の薄灰褐色粘質シルト系、暗灰褐色粘質シルト系、古墳時代後半以降の黒灰褐色礫・シルト系の層が重なる。東西方向の谷埋没土を中心として布留期以降の暗灰褐色粘質シルト系、弥生時代後期～庄内期古段階の薄灰褐色粗砂・黄灰褐色砂層がある。地山は粗礫を多く含む砂礫層となる。

南端部ではピット、土坑、落込み、溝があり、南西－北東溝ＳＤ１・２から庄内～布留期の高杯が、北半の東西溝ＳＤ４からは庄内期前半の平底甕が出土する。中央部南半では弥生時代後期～庄内期のまとまったピット、溝を検出した。ここでも南西－北東溝ＳＤ７があり、庄内期古段階の平底甕が見られる。北接して７～８世紀の土師器・須恵器を含む東西溝ＳＤ11を南限にして掘立柱、土坑の他、一辺5.5ｍの方形周溝状のものも認められる。すぐ北の土師器・須恵器を含む南西－北東溝ＳＤ13から北の北端部は様相が一変し、地山が高く包含層は薄くなり、浅い位置でピット、土坑、溝を検出となる。

まとめ

今回の調査区は16-１・２区双方とも、谷中心に弥生時代後期から庄内期の遺構・遺物の分布範囲が南北600ｍ以上に及ぶことが分かった。また、16-１区南端部では竪穴住居群の北端の状況や、16-２区中央部北半で７世紀中頃の建物群や16-１区では中世期の耕作地といった連綿と続く遺構・遺物確認できた。



第49図　安威・安威城跡調査位置図

第50図　16－２区　溝ＳＤ２　土器４高杯出土状況

芦部（あしべ）遺跡（０４００８）

（１）和泉市芦部町
（２）国道４８０号線歩道設置
（３）廣瀬雅信

はじめに

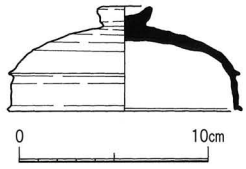
当遺跡は2004年10月に実施した試掘調査で新たに発見した遺跡で、引き続いて11月から本発掘調査を実施した。調査面積は約300㎡である。

国道480号線は槙尾川の右岸段丘上を走る道で、槙尾川の低位段丘に向かって下がっていく地形の変換線上にある。和泉の条里地割りに沿っており、道としての歴史は古いと考えられる。付近に禅寂寺跡など、著名な遺跡の存在も知られている。

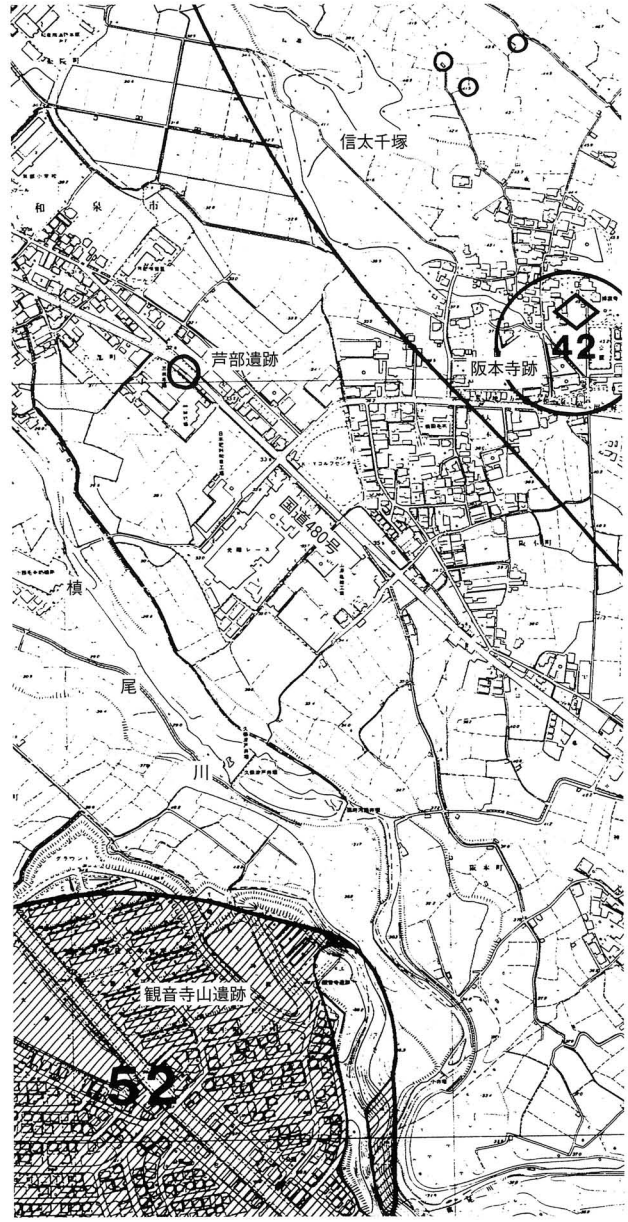
調査結果

調査地は道路に面して民家が建っていたため、0.4～0.7ｍの盛土が施されており、その下で旧耕作土が確認された。耕作土の下は灰褐色～茶褐色粘質土の床土でこれが中世の遺物包含層である。中世の遺構は条里の方向に合致する小溝が検出されたにとどまる。その下層は礫混じり暗褐色粘土の古墳時代の遺物包含層となる。遺構面は締まりのない砂層と粘土混じり礫層上面で、土坑、溝、柱穴を検出した。遺構面の標高はT.P.＋10.7ｍ前後である。溝、土坑からは土師器、須恵器の小片が出土した。遺物包含層から出土した完形の須恵器坏蓋を図示しておく。

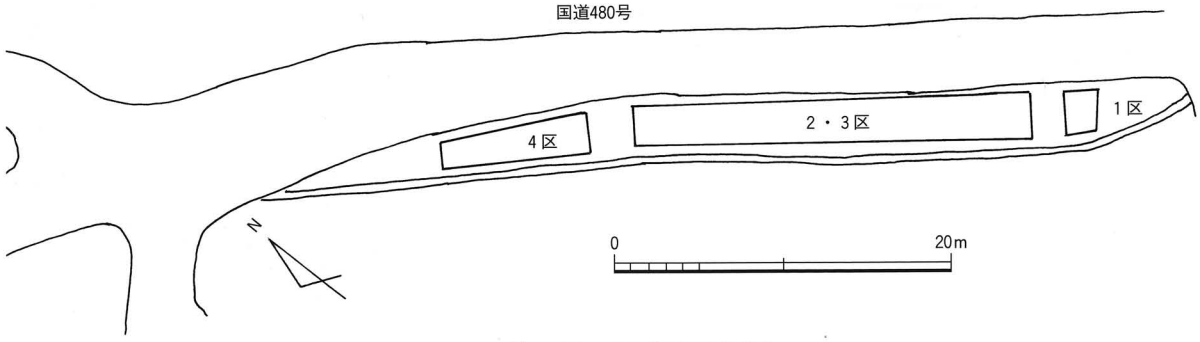
今回の調査はトレンチ幅が２ｍ程度と狭かったため、遺構面の広がりを追求することができず、従って検出した遺構の性格についても不明と言わざるを得ない。



第51図　遺物包含層出土須恵器



第52図　芦部遺跡位置図



第53図　調査区配置図

下池田遺跡（０４０５０）

（１）岸和田市下池田町地内
（２）府営久米田第４住宅建て替え
（３）三木　弘

平成15年度に続き、府営久米田第４住宅建て替えに伴う発掘調査を実施した。本年度の調査は、防火水槽部分（１区）と昨年度に調査を行った住棟部分をＬ字形に囲む外周道路のうちの総延長約150ｍ（全体の70％）部分（２区）である。

１区の調査成果

１区では、厚さ60～70㎝の盛土および約10㎝の厚さの旧耕作土を除去すると、褐色系あるいは灰色系の砂質土、粘質土となる。この面で遺構検出が可能となるが、遺構は存在しなかった。

２区の調査成果

２区も厚さ80㎝ほどの盛土と約10㎝の旧耕作土を除去して遺構検出が可能となる。ただし遺構検出面である旧地形は平坦ではなく、調査区の北東および南西方向に僅かに高まり、昨年度調査した住棟部分に向かっては若干下降する。

２区では溝、井戸、土坑、流路などを検出した。溝は、上辺幅２ｍ強を測る北東－南西方向のものと、上辺幅0.5ｍほどの幅狭い北西－南東方向の2条がある。前者は出土遺物から鎌倉時代以降のものと考えられ、昨年度検出された南東から北西に延びる溝と形状や出土遺物が類似することから、両調査区の間で屈曲して繋がる可能性はある。

井戸は、上述の北東－南西溝の底で１基、その溝の東で１基みつかった。前者は井戸底が残っていたに過ぎず、その上に溝内堆積土が覆っていたことから溝よりも先行する。遺物の出土はなかったが、廃棄時に投入されたとみられる拳大の礫が数点底に散在していた。

後者の井戸は、曲物を３段組み上げて井筒とし、上縁に沿って拳大の礫を円形に配し、その上に直径10 ㎝、長さ１ｍほどの丸太で井桁を組み、そして長さ20～40㎝の角礫を横積みにするという、丁寧な造りである。上辺で１辺約55㎝、井筒の内径は40㎝強、深さは確認面から1.3ｍを測る。内部には灰色系の粘土が検出面近くまで堆積していて、高台が紐状に脆弱化した瓦器椀、土師器の皿、土錘などが20点以上出土した。井戸底近くから出土した椀や皿は、ほとんどが完形あるいはそれに近いものであった。

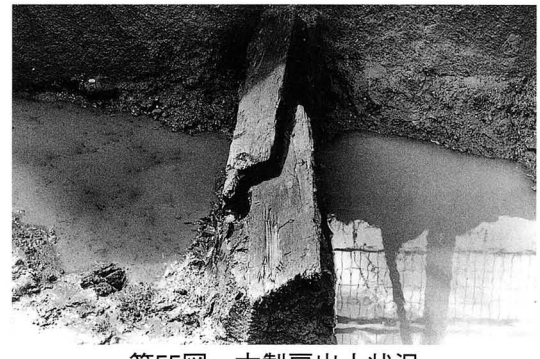
土坑は大小あるが、調査区の南半で検出された長さ20ｍと16ｍの２基の大型土坑は近代の粘土採掘により形成されたと考えられる。さらに後者の底面には、埋め戻しに伴って瓦と礫を混在した暗渠が設けられていた。なおこの土坑からは、古墳中期前葉頃とみられる埴輪片がまとまって出土していて、付近に埋没した古墳が存在しているのかも知れない。

自然流路はＪＲ阪和線に沿った調査区北半で２条みつかった。ともに主流部分が一段深くなっている。そのうち、北半中央でみつかった１条は上段幅12ｍ、中段幅2.5～４ｍ、深さ60㎝ほどを測る。弥生土器の破片が出土しているが、多くない。

もう１条の流路は、北半範囲の南端から北西方向に延びている。上段幅９ｍ、中段幅３～４ｍ、深さ1.2ｍである。流路内の上半は灰色系の粘土、下半は同系の砂で埋まっている。この流路内からは弥生後期および古墳前期の土器が比較的多く出土し、さらに粘土層の下位からは半折状態の木製扉が出土した。

扉は縦幅80㎝で、端部の上下に長さ10㎝の軸を有する。閂の痕跡はない。流路内遺物の状況から、弥生後期のものと考えられる。

第54図　井戸全景



第55図　木製扉出土状況

学園町遺跡（０４０５２）

（１）堺市学園町１番１号
（２）大阪府立大学整備計画工事
（３）関　真一

１．はじめに

本調査は、大阪府立大学構内における整備計画工事に伴い行なった試掘調査である。調査は、トレンチを９ヶ所設定し重機及び人力による掘削

学園町遺跡は、大阪府立大学構内に所在する遺跡であり、当遺跡から西へ約350ｍの所にはニサンザイ古墳が位置する。

なお、調査地は隣接する工事現場関係者の駐車場として利用されていた。

２．基本層序

現地表から約１ｍ下までは、大学建設の際の盛土である。その下に、３層ほど耕作土と思われる層が堆積する。これらのうち遺物包含層は中・下層であり、下層の方から遺物が多く出土した。

出土した遺物は土師器・須恵器・埴輪・瓦器などであるが、いずれも細片で摩耗が激しく明らかに２次堆積のものであると判断された。そのため、遺物包含層も客土と考えられ、出土した遺物からいずれも中世より遡る可能性は低いと考える。

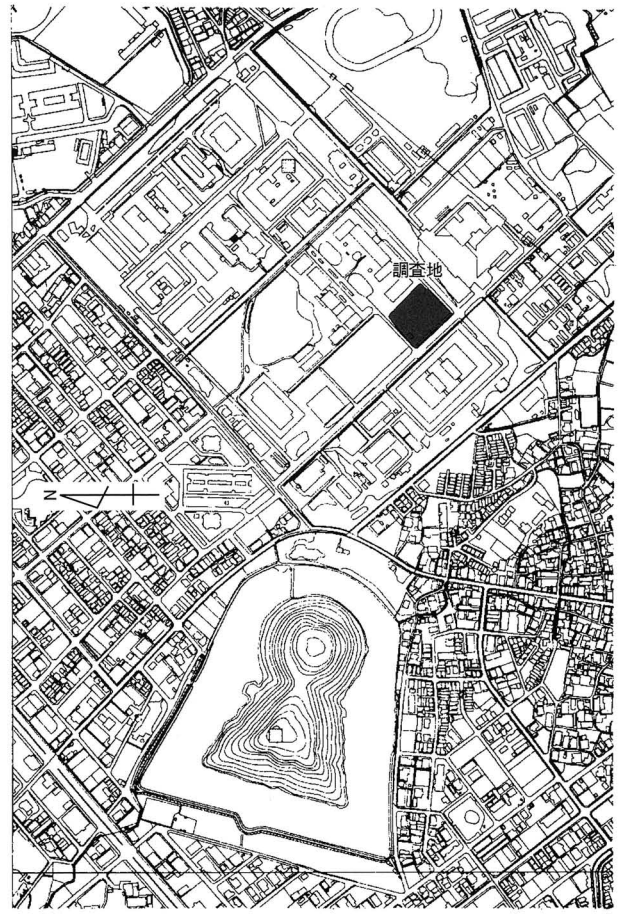
この遺物包含層を除去すると、黄灰褐色のやや粘性のあるシルトが各トレンチ共通に観察され、遺構がわずかに確認された。また、それより下層を確認したがほぼ共通して、黄灰白色系の砂層が観察されいずれも遺物が確認されなかった。これらのことから、遺物包含層除去後に現れるシルト層以下が地山であると判断している。地山レベルは現地表下から約1.3～1.6ｍで確認される。東へ緩やかにレベルを減じているようである。

地山を検出した際には、自然流路と考えられるものを２本程度確認できた。

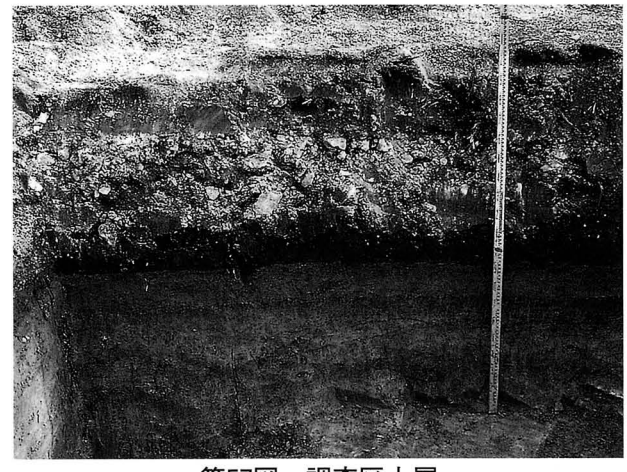
いずれも、東西方向の向きで検出されており、地山の状況から東方向へ流れていたものと考えられる。

３．遺構と遺物

検出された遺構は、耕作土層上面で鋤溝が、また地山面では自然流路と思われる東西方向の溝が部分的に確認されたが、遺物は一切出土しなかった。包含層中の遺物には、円筒埴輪の破片が含まれており、周辺の状況からニサンザイ古墳がその帰属先と思われる。但し、距離が比較的離れていることなどから、ニサンザイ古墳周辺にかつて小規模な古墳が存在し、それに樹立していた埴輪である可能性も考慮しておく必要があろう。



第56図　調査区位置図


第57図　調査区土層

枚方宿遺跡（０４０６０）

（１）枚方市岡本町
（２）枚方市駅前街路整備
（３）小林義孝・岡田賢

はじめに

枚方宿遺跡は、京（大坂）街道に設置された江戸時代の宿場跡で、当時の宿内は河内国茨田郡泥町村、三矢村、岡村、岡新町村の４カ村で構成されていた。それぞれ現在の枚方市堤町、三矢町、岡本町、新町１丁目にあたる。

今回の調査は、枚方駅前の街路整備に伴うもので、上記各地区のうち岡本町地区にあたる。ちょうど往還が升形に屈曲する通称「宗佐の辻」の西側である。

調査地点は主要地方道枚方・富田林・泉佐野線東側の歩道部分で、これと交差する旧京街道を挟んで南北２地点のうち、南側をⅠ区、北側をⅡ区として行った。調査面積は計約50㎡である。

調査の概要

Ⅰ区

地表面から約120㎝は現代の盛土で、その下の黄褐色粘質土を除去したところで、礎石やピット、溝を検出した(第１遺構面)。出土遺物は肥前系の灰釉丸碗、染付丸碗、中国系磁器(青花碗)、銭貨、土製品、鉄製品などがある。また第１遺構面上面でさし銭が出土している。当遺構面の陶磁器の年代観から17世紀後半を中心とする時期であると考えられる。

第１遺構面下には、炭混じりの淡茶褐色砂層と部分的に見られる焼土層があり、これを除去すると礎石やピットが検出された（第２遺構面)。出土遺物は少なく、中国系磁器（青花皿）など陶磁器は数点出土しているのみで、他には銭貨、鉄製品が出土している。当遺構面は陶磁器の年代観から17世紀前半から中頃だと考えられる。

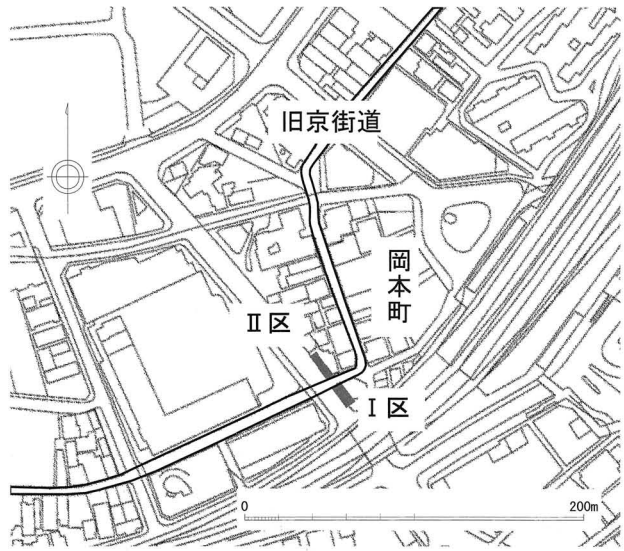
Ⅱ区

地表面から第１遺構面までの約100㎝は現代の盛土である。盛土下には灰白～青灰色の粘土層が堆積しており、さらにその下の炭や焼けた壁土の破片が混じる黒褐色砂を除去すると、往還側で礎石や土間とみられる硬化面が検出された。礎石の検出レベルはT.P.9.5ｍ前後である。往還から淀川に向かって遺構面は緩く傾斜しており、約10ｍの所から先には遺構は存在しない。当遺構面からは、瀬戸・美濃の灯明皿、丸碗、唐津の小坏、中国系磁器（白磁碗)、銭貨、鉄製品、瓦などが出土している。陶磁器の年代観から当遺構面は16世紀末から17世紀前半であると考えられる。

第１遺構面より下には顕著な遺構は存在しなかった。GLより約２ｍまで掘下げたところ、往還側のT.P.9.4ｍ付近で検出した白灰色砂層が、北側（淀川の方）へ落込んでいく様子が確認された。

まとめ

今回の調査では、地表面から１ｍ近くまで盛土されていたものの、Ⅰ区で17世紀の遺構面を２面、Ⅱ区で16世紀末から17世紀前半の遺構面を検出した。特に２区の遺構面は文禄堤築堤後の町屋の一部を検出しており、近隣における既往の調査例とも併せて町屋復元に資する資料的価値は大きいといえる。



第58図　調査区位置図

第59図　Ⅰ区第２遺構面（南東より）

西大井遺跡（０４０６１）

（１）藤井寺市西大井
（２）大井処理場放流渠築造工事
（３）関　真一

１．はじめに

西大井遺跡は、羽曳野丘陵と国府台地の間に位置する遺跡である。下水処理場の建設にともない1980～90年代にかけて調査が断続的に実施された結果、旧石器時代から連綿と遺構が続く複合遺跡であることが判明している。特に水田の検出による当遺跡の開発状況の解明や、数多くの土坑墓の検出などは周辺の歴史的環境を考えるうえで重要である。

２．調査の概要

当調査区は、下水処理場から大水川へ排水するための放流渠を建設するに際して、発掘を行なった。そのため従来の発掘調査地の中で最も西側に位置する場所にあたり、大水川の東側に接する。

調査はT.P12.5mから人力による掘削を行ない、結果的に約T.P11.3～11.8ｍで地山を確認した。地山は西側の大水川から東へ緩やかに傾斜し、レベルを下げていく。

さて、検出した遺構面は計３面であり、上面から第１遺構面と名付けた。

第１遺構面は、T.P12.2ｍで確認され東西方向と南北方向の畔が確認された。時期を特定できる遺物は出土しなかったが、過去の調査成果から12世紀後半頃に廃絶した水田面と思われる。

第２遺構面は調査区東側でT.P11.4ｍ、西側でT.P11.8ｍと東側へ傾斜する水田面である。南北方向の畔を２本検出した。第１遺構面と同様時期を特定できる遺物は出土しなかったが、周辺の調査成果から11世紀後半以降に形成された水田面と考える。

第３遺構面は地山での検出であり最も多くの遺構が確認された。遺構は溝と土坑である。溝はいずれも南北方向に流れている。

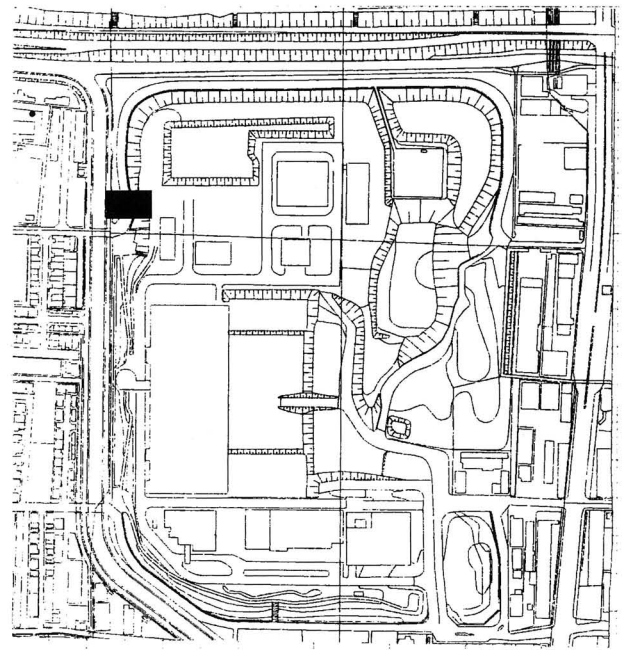
一方、土坑は約20基近く検出した。それらのうち、掘建柱建物の柱穴と思われる土坑を複数検出できた。これら土坑は検出した段階では、不整形であったが掘削すると一辺40～50㎝の方形を呈する土坑であった。各土坑の心芯間で1.8～1.9ｍを計る。柱穴痕は確認できなかった。また、これらの他にも、柱穴と思われる土坑を確認している。

現時点では時期を確定しがたいが、出土した土師器などから古墳時代と考える。

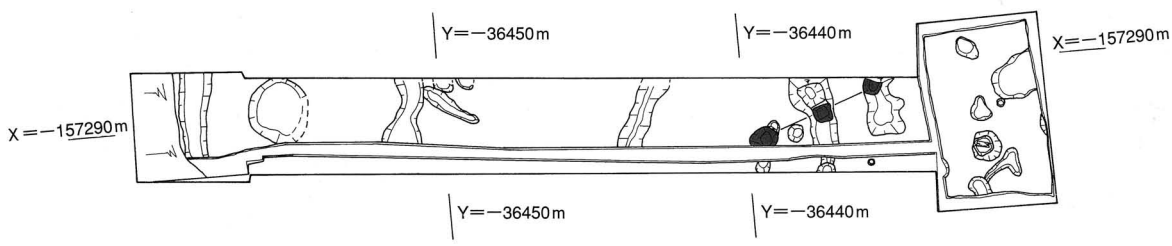
３．まとめ

今回の調査によって西大井遺跡で、古墳時代で初めてとなる建物跡の一部を検出できた。従来の発掘調査では、居住域と想定される遺構がほとんど検出されていなかった状況から判断すると、当遺跡より西側、つまりは地山がレベルを上げていく部分に居住域が展開する可能性が高く、これまでの調査で検出された水田や土壙墓群に対応する集落の存在が想定される。

今後、当調査区より西側の段丘上に展開するであろう遺跡の調査例が増加することを期待する。



第60図　調査区位置図



第61図　第３遺構面平面図

加美（かみ）遺跡（０４０６２）

（１）大阪市平野区加美東６丁目
（２）久宝寺緑地橋梁整備工事
（３）一瀬和夫・岡田賢

はじめに

本調査は久宝寺緑地内の西端部を南北に流れる用水路の橋梁整備に伴うもので、南北２地点のうち、南側をＡ区、北側をＢ区として調査を行った。調査面積は各120㎡である。Ａ区の西側約50ｍでは過去に（財）大阪市文化財協会の調査によって庄内・布留期の周溝墓群が確認されている。

調査の概要

Ａ区

検出した遺構面は、第１面現代水田、第２面近世の島畠、第３面古代の耕作地、第４面庄内～布留式期の大溝である。

第４遺構面の大溝は調査区中央部を現在の用水路によって深く削平されており部分的な検出であったが、Ａ東区の約T.P.＋5.4ｍで明瞭な肩部を検出している。溝の軸はＡ東区南端の中央区との境目付近と、Ａ西区北端の中央区との境目付近を結ぶ、南東－北西のラインであることから、大溝の幅は５～６ｍを測ると考えられる。深さは最深部で約120㎝である。なおＡ東区では大溝の肩が南東方向から東方向に向きを変えて分流する様相がみられる。

一方Ａ西区では、中央部で拳～人頭大の河原石を配した貼石状遺構（004）を検出した。検出レベルは約T.P.＋5.3ｍである。これは大溝の西側の肩部を掘り込んだところに河原石を不規則に並べ、斜面を形成したものである。従って大溝の西側の肩は004の構築の際に破壊されている。004検出時は上方からの転落石や崩落土で覆われており、転落石は大溝を最終的に埋めることになる暗褐色粘土層からも多く出土している。崩落土中からは円筒埴輪片や二重口縁壺形土器片が出土している。また大阪市立自然史博物館の川端清司氏のご教示によると、河原石は石川流域のもので、その構成比は、砂岩（粗粒、中粒）20.6%、花崗岩24.3%、礫岩8.6%、流紋岩8.3%、溶結凝灰岩8.6%、安山岩3.8%などとなり、約15種類の岩石がみられる。一方004の掘り込みから北へ約２ｍの、Ａ西区北端部は周囲よりも一段落ち込むが、ここから二重口縁壺形土器が２個体分出土している。

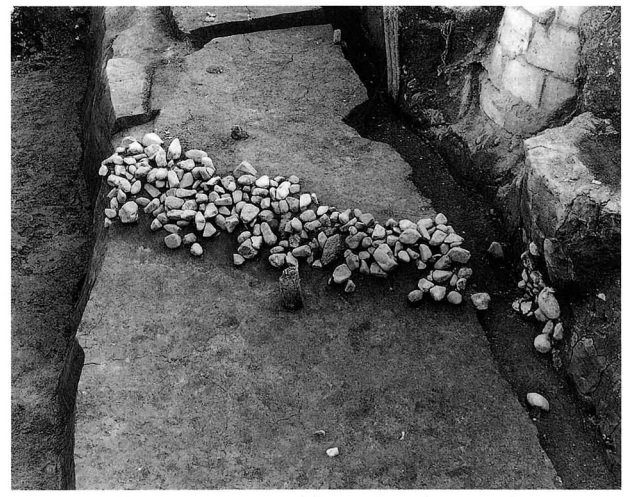
また大溝を埋める暗褐色粘土層から針葉樹製の角材、厚さ15㎝もある板材が出土している。

出土した土器の様相から、大溝は遅くとも庄内式新段階頃に開削され、その後布留式古段階に西側の肩部を掘り込んで004を構築したあと、最終的には004と東側の肩部ともに暗褐色粘土により埋められる。さらにその上層には有機物を多量に含む黒褐色粘土層で覆われることから、大溝の埋没時には湿地的な状況になっていたと考えられる。

Ｂ区

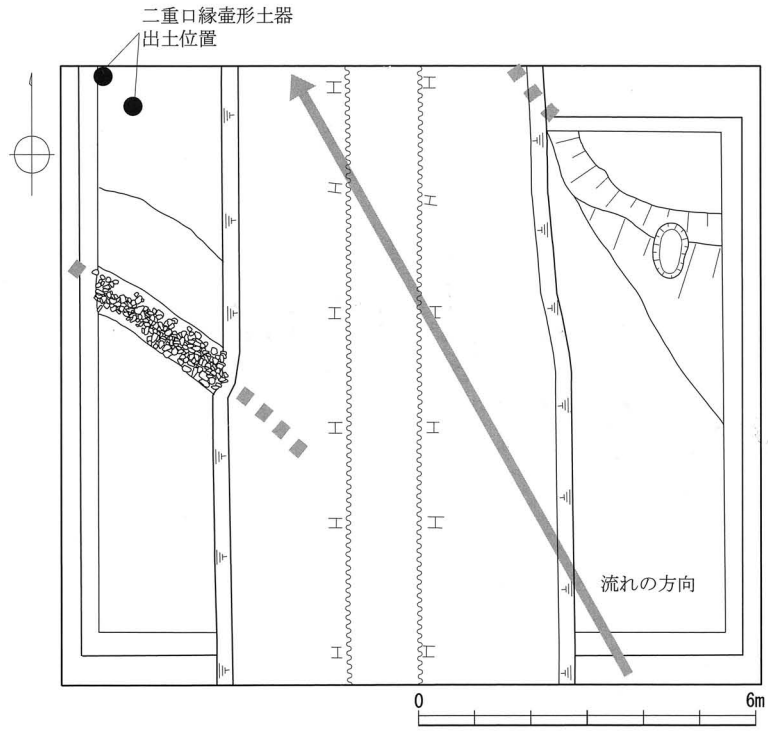
Ｂ区はＡ区の北約300ｍの地点である。Ａ区同様に中央部を現在の用水路が流れているため、削平が

第62図　調査区位置図


第63図　００４検出状況（北より）

深く、東西の土層のつながりを把握することは困難であった。B東区(東壁)、B西区（西壁）ともに基本層序はほぼ同様である。

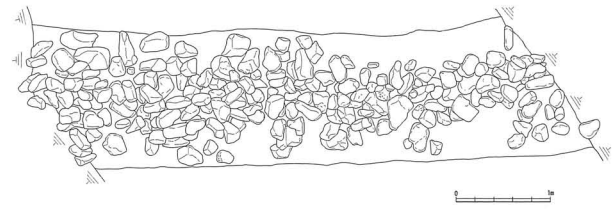
第０層は現代水田の作土層、第１層は近世島畠を形成する灰色粘質シルト、第２層は青灰色砂混じり粘質シルトで下面において東西方向の堺溝を検出している。第３層は灰黄色粗砂～礫、第４層は灰色細砂～砂質シルトで氾濫堆積物である。第５層は暗灰色の粘質シルトで上半は植物遺体層を挟み、下半は第６層灰色細砂混じり粘質シルトをブロック状に含む作土層である。B西区では第５層下半部（T.P.＋4.6ｍ）で水田畦畔を検出しているが、B東区では検出できなかった。遺物はほとんどみられなかったが、調査区西側に接する（財）大阪市文化財協会によって行われた調査地点での成果を合わせると、この水田畦畔は布留式期に相当すると考えられる。



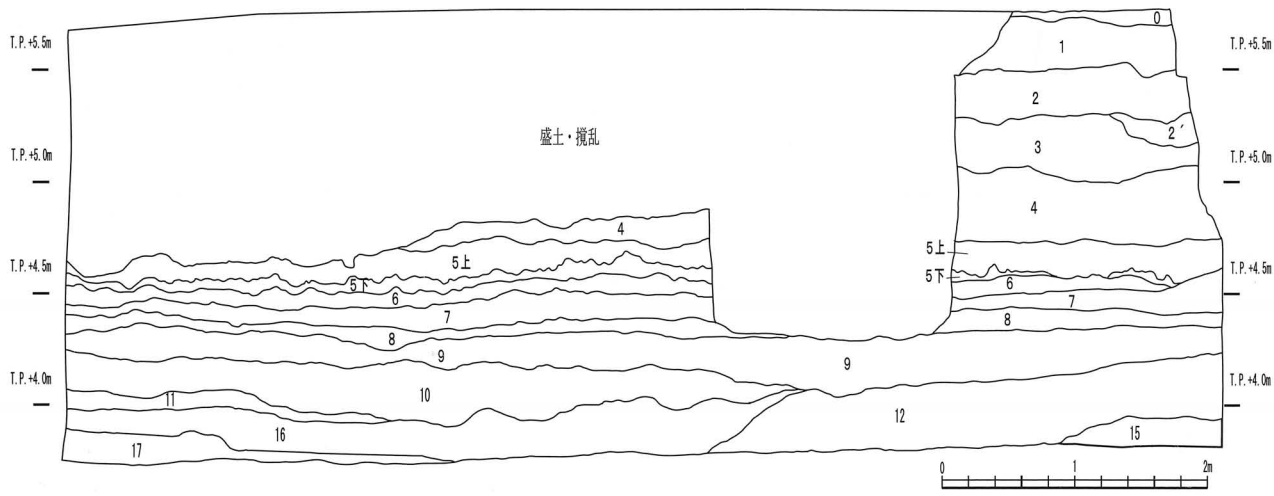
第64図　Ａ区遺構全体図

第７層は灰色粗粒砂、第８層は青灰色砂質シルトでともに氾濫堆積物である。第９層は緑灰色粘質シルトで植物遺体を含む。第10層は青灰色砂質シルト、第11層は灰色砂質シルト、第12～17層は灰白色～灰色の細粒砂～粗粒砂で一部に礫層をともなう氾濫堆積物である。

Ｂ区では、布留式期相当の水田畦畔を一部で検出したものの、遺物量がＡ区に比し極端に少なく、層序の年代を決定することが困難であった。周辺での調査例を考慮すると、布留式期にはＢ区は耕作地の一部であったということができる。



第65図　００４検出状況平面図



第66図　Ｂ区東壁土層断面図

堀（ほり）遺跡（０４０６５）

（１）松原市天見南５丁目
（２）都市計画道路堺港大堀線整備事業
（３）西口陽一

１．調査方法

道路新設区域の橋脚部分２箇所を発掘調査した。西側をＥ区、東側をＦ区とし、調査面積は117㎡である。地表下1.3ｍまでを機械・人力掘削し、記録保存の処置を施した。

２．調査結果

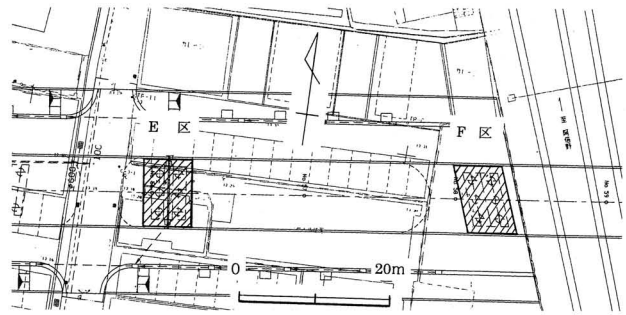
（Ｅ区）　東西6.5ｍ南北９ｍの調査区で、厚さ50㎝の新盛土の下に、旧耕土・床土がある。田圃の下には、厚さ40㎝の中世～近代にかけての粘土層があり、２枚の田圃の層があった。瓦器や土師器などが出土した。その下に奈良時代の遺物包含層である厚さ10㎝のこげ茶色粘土層がある。この層は、汚くねばい粘土層で、奈良時代の須恵器・土師器の細片のみが出土した。その下に、地山である洪積層の黄褐色粘土層があった。この地山面上に径10㎝内外の牛の足跡が多数検出された。埋土は、こげ茶色粘土層で、上層からの踏み込みと考えられた。牛を利用した田圃があったのか、牛利用の田圃造成の跡と考えられた。

（Ｆ区）　東西6.5m南北９ｍの調査区で、厚さ60㎝の新盛土の下に、旧耕土・床土がある。田圃の下に、２枚の遺物包含層がある。上層包含層は、厚さ10㎝の暗灰黄色粘質土層で、中世～近世にかけての層である。下層包含層は、厚さ15㎝の灰色粘質土層で、瓦器や土師器の細片を含んでいた。この層は、砂が混じり合い、部分的に黄灰色粘土がブロック状になっていることから、中世の置土層と考えられた。その下に、部分的に淡灰黄色砂質粘土層が堆積しており、この層も置土層と考えられた。その下に、厚さ10㎝の汚い灰褐色粗砂層があり、調査区全体に堆積していた。河川堆積層と考えられ、無遺物であった。その下に黄色～灰黄色粘土層が堆積しており、無遺物で、洪積段丘層と考えられた。

汚い灰褐色粗砂層上に、ピットや土坑が15基検出された。ピットは、径30㎝のものが多く、等間隔で並ぶものはなく、建物跡とは考えられなかった。土坑も、性格不明であったが、調査区南東隅の土坑から、古墳時代中期の土師器小型壺片が出土したので、遺構の時期が推定された。ただし、地山面上の包含層からは、奈良時代の須恵器・土師器・製塩土器などが出土しているので、その時代の遺構も存在すると推定された。

３．まとめ

今回の調査によって、堀遺跡の東端部が奈良時代に始まるらしいこと、その範囲がさらに東側に伸びていくことなどが推定された。



第67図　調査区位置図

第68図　Ｅ調査区全景（南東から）

第69図　Ｆ調査区全景（北西から）

＜普及啓発・広報事業＞

●研究会・検討会等

A　研究会

・平成16年９月18日
第49回大阪府埋蔵文化財研究会
テーマ：「最近の大阪府における弥生時代の集落関連の発掘調査と研究事例」
会　場：大阪府教育委員会文化財調査事務所

・平成17年３月12日
第50回大阪府埋蔵文化財研究会
テーマ：「最近の後期、終末期古墳の調査・研究事例」
会　場：大阪歴史博物館

B　調査等スライド検討会

・平成16年５月12日
西川寿勝「平尾遺跡の調査」

・平成16年６月９日
枡本　哲「アカハゲ古墳の調査と三次元レーダー測量について」

・平成16年７月14日
杉本清美「安松田遺跡の調査」

・平成16年９月８日
安部みき子「動物考古学の現状と課題」
（大阪市立大学大学院医学研究科）

・平成16年10月13日
小林義孝「墓塔の成立過程」

・平成16年11月10日
広瀬雅信「深井清水町C遺跡の調査」
西川寿勝「平城宮地下高速道路問題の報告」

・平成16年12月８日
関　真一「和歌山県吉備町における発掘調査―中世墓の一事例について―」

・平成17年１月12日
中井貞夫「刀剣と弓箭」

・平成17年２月９日
橋本高明「平成16年度（財）大阪府文化財センターの調査」

・平成17年３月９日
奥　和之「北摂山間地における発掘調査成果」

●発掘調査の現地説明会

・平成16年11月６日
蔀屋北遺跡（四條畷市）　　参加者　約180人

・平成17年２月26日
寺田遺跡（和泉市）　　参加者　約120人

・平成17年３月５日
ツカマリ古墳（河南町）　　参加者　約900人

・平成17年３月20日
余部日置荘遺跡（堺市）　　参加者　約 90人

●職場体験学習

・平成17年２月10日
堺市立晴美台中学校　２年生　５人
大阪府立泉北考古資料館において、展示ケースの清掃、入館者への記念品の製作をおこなった。

●博物館実習

・平成16年８月11日～14日・18日（５日間）
立命館大学２人、大阪樟蔭女子大学２人の博物館実習生を受け入れた。

●速報展の開催

大阪府教育委員会が実施した発掘調査や遺物整理事業の成果をいち早く公開するため、大阪府立泉北考古資料館において「速報展」を開催した。

・第24回速報展「発見！最古級の馬鍬―木の本遺跡―」
期　間：平成16年２月26日～５月16日
展示品：馬鍬１点、弓１点、鋤１点、鍬１点、椅子１点、匙１点、杓子１点、容器１点、石包丁２点、石斧１点、石斧の木製柄１点、弥生土器（土器棺・壺・甕・鉢・蓋・小型壺・小型甕・小型鉢・把手付鉢・異形土器）15点　　計27点

・第25回速報展「大和川付替え300周年記念　よみがえる新大和川沿いの大遺跡―大和川今池遺跡―」
期　間：平成16年５月20日～８月15日
展示品：八稜鏡１点、黒色土器椀３点、須恵器（杯身・杯蓋・高杯・イイダコ壺）７点、土師器（壺・小型丸底壺・甕・杯・片口鉢・墨書土器）８点、土錘１点、青磁碗１点、染付碗１点、京焼碗１点、ヒスイ勾玉２点、曲物容器２点、銅鈴１点、軒丸瓦（巴文・蓮華文・梵字文）４点、軒平瓦（蓮華文）１点、鬼瓦１点、斎串８点　　計42点

・第26回速報展「堺・商都のにぎわい―堺環濠都市遺跡―」
期　間：平成16年８月19日～12月12日
展示品：斧１点、鍔１点、柄鏡１点、陶磁器類（備前焼・丹波焼・瀬戸焼・美濃焼・唐津焼・伊万里焼・景徳鎮窯ほか）35点、漆器椀２点、瓦質火鉢１点、灯明台１点、土師皿２点、銭貨５点、漆器製作用のハケ１点、秤のおもり２点、漁網のおもり２点、焼塩壺１点、下駄３点　　計58点

・第27回速報展「姿をあらわした渡来系の大集落
—蔀屋北遺跡—」
期　間：平成16年12月16日
～平成17年４月16日
展示品：竹製の注ぎ口を付けた須恵器１点、木製の栓を付けた須恵器１点、移動式かまど１点、U字形板状土製品１点、韓式系土器・陶質土器５点、甑１点、製塩土器５点、木製輪鐙２点、琴柱３点、えぶり１点、刀形木製品１点、杓子１点、横槌１点、文様を施した曲刀子１点、刀子１点、鉄鏃３点、釣針１点、曲刃鎌１点、フイゴ羽口１点、鍛冶滓２点、ガラス玉２点、勾玉１点、臼玉７点、双孔円板４点　計48点

●優品展の開催

大阪府教育委員会が所蔵する特に重要な考古資料を公開するため、大阪府立泉北考古資料館において「優品展」を開催した。

・第４回優品展「中世密教の世界
—普賢寺遺跡出土品—」
期　間：平成16年４月１日～９月26日
展示品：金銅密教法具（火舎１点、六器鋺３点・花皿５点、灑水器蓋１点、塗香器鋺１点・花皿１点）12点、金銅僧形坐像（推定　弘法大師像）1点　計13点
＜大阪府指定文化財　有形文化財（考古資料）＞

・第５回優品展「京焼と湊焼—府立大阪博物場旧蔵の近世陶磁器—」
期　間：平成17年３月25日
～９月25日
展示品：古清水色絵雉子香炉１点、古清水色絵梅桐文麻葉透六角鉢１点、古清水錆絵蒲公英文菱向付10点、湊焼飴釉牡丹文皿１点、湊焼黄地手桶形水差１点、湊焼飴釉四方水注１点、湊焼黄地土瓶１点　計16点
＜大阪府指定文化財　有形文化財（工芸品）＞

●里帰り展の開催

独立行政法人国立博物館提唱による「博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」に基づいて、東京国立博物館から大阪府内出土の考古資料を借用し、大阪府立泉北考古資料館において「里帰り展」を開催した。

・第６回里帰り展「東京国立博物館所蔵の名品
南河内の大豪族—大師山古墳出土の腕飾り—」
期　間：平成16年10月15日
～平成17年３月13日
展示品：鍬形石・車輪石・石釧22点、紡錘車形石製品４点　計26点

大阪府教育委員会から下記の資料を東京国立博物館に貸し出した。

雁屋遺跡出土　弥生土器（細頸壺２点・広口壺２点・台付鉢１点・鉢１点・高杯１点・器台１点・手焙形土器１点）　計９点

●府庁別館における考古資料の展示

府庁別館１階および８階の展示ケースに、発掘調査成果として出土品の展示をおこなった。

・平成16年２月27日～７月15日
「加納古墳群—黄金の耳飾り—」（１階）
展示品：金環１点、黒漆塗り鞘入り大刀１点、鉄製刀子１点、鉄製釘20点、須恵器（杯身・台付長頸壺・平瓶・円面硯）６点　計29点

「吉井遺跡
—天平宝字三年（759年）銘の木簡—」（８階）
展示品：木簡１点、白磁皿１点、土師器（壺・甕）３点、須恵器（ヘラ記号をもつ杯・杯蓋・壺・平瓶）５点、瓦器椀４点、土師質小皿２点、土師質羽釜１点、掘立柱建物の柱２点　計19点

・平成16年７月16日～平成17年１月28日
「大和川付替え300周年記念
旧大和川沿いの古代遺跡」
展示品：東郷遺跡出土　人面墨書土器３点、弥生土器壺（絵画土器含む）３点、土師器甕１点、成法寺遺跡出土　人面墨書土器２点　計９点
（１階）
展示品：稲葉遺跡出土　弥生土器（壺・甕・台付無頸壺・台付無頸壺蓋）５点、船橋遺跡出土　墨書土器１点、土馬４点、東郷遺跡出土　特殊器台１点、土師器（小型丸底壺・甕）３点、成法寺遺跡出土　土師器片口鉢１点　計15点
（８階）

・平成17年２月１日～８月５日
「大阪府指定文化財　指定記念特別展
—金銅僧形坐像及び金銅密教法具—」（1階）
展示品：金銅僧形坐像（推定　弘法大師像）１点、金銅密教法具（火舎１点、六器鋺３点・花皿５点、灑水器蓋１点、塗香器鋺１点・花皿１点）12点　計13点
＜大阪府指定文化財　有形文化財（考古資料）＞

「木の本遺跡の調査成果」（８階）
展示品：馬鍬１点、弓１点、鋤１点、鍬１点、椅子１点、匙１点、杓子１点、石包丁３点、石斧１点、弥生土器（壺・甕・小型壺・小型甕・小型鉢・把手付鉢・異形土器）12点　計23点

●資料数一覧（平成17年３月末現在）

A　出土遺物（整理箱数）

・泉北考古資料館内第１収蔵庫	１０，５５９箱
堺市若松台	
・泉北収蔵庫	３３，５３６箱
高石市綾園４丁目	
・大井収蔵庫	１２，７８４箱
藤井寺市西大井	
・外環高架下収蔵庫	７，５９２箱
藤井寺市西古室	
・志紀収蔵庫	３，０９７箱
八尾市志紀町西	
・北部収蔵庫	３，０９９箱
摂津市鳥飼中	
・東大阪文化財収蔵庫	６５，８２１箱
東大阪市長田東	
・文化財調査事務所	８，９１０箱
堺市竹城台	
合計	１４５，３９８箱

B　民俗資料

・文化財調査事務所	
谷口家資料	２２１点
上辻家資料	１３２点
守田コレクション	約２００点
上平家資料	１５０点
畑野家資料	６８点
三宅家資料	
大恩寺資料	
前西家資料	２２件

C　その他の資料

・文化財調査事務所	
図面資料	（注１）４，７５８ケース
写真資料	７，０６３ケース
台帳	２，６０８冊
パネル	６８５点
図書	３１，５６９冊

（注１）　再整理実施のため、ケース数は昨年度より減少

平成16年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物

大阪府埋蔵文化財調査報告

２００４－１　『招提中町遺跡・Ⅱ』
２００４－２　『総持寺遺跡』古墳時代中期の小規模古墳群の調査
２００４－３　『安松田遺跡』
２００４－４　『大和川今池遺跡』－今池処理場水処理施設等新増設に伴う発掘調査報告－
２００４－５　『深井清水町Ｃ遺跡』
２００４－６　『中野北遺跡』
２００４－７　『赤山古墳群』

概要報告

『蔀屋北遺跡発掘調査概要・Ⅱ』
『大県郡条里遺跡確認調査概要』
　－恩智川（法善寺）多目的遊水地予定地の調査－
『加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要・Ⅳ』
　－中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」に伴う－
『陶器千塚・陶器遺跡発掘調査概要
　－府営集落基盤整備事業「陶器北地区」に伴う－』
『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』８

資料の貸出・掲載・閲覧

長期貸出資料

	貸出・展示先	遺跡名	資料名	点数	備考
1	東京国立博物館	深田遺跡	須恵器	14	展示
2	国立歴史民俗博物館	池上曽根遺跡	石包丁	3	展示
3	富田林土木事務所	池尻城跡	宵金	1	展示
	(大阪府立狭山池博物館)	大和川今池遺跡	鋤	1	
4	大阪府立ドーンセンター	大坂城跡	美濃焼	8	展示
			志野焼	2	
			中国製白磁	1	
			青花	1	
			ベトナム製色絵皿	1	
5	大阪府立大手前高等学校	大坂城跡	金箔瓦	3	展示
			重圏文軒丸瓦等	2	
			須恵器	1	
			白磁	1	
			美濃焼	1	
			青花	1	
			天目茶碗	1	
			分銅	1	
			鍔	1	
			笄	1	
			写真パネル等	4	
6	大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦	10	展示・講義
			軒平瓦	8	資料
			鬼瓦	3	
			雁振瓦	1	
			瓦器	7	
			土師皿	11	
			擂鉢	1	
			土師質羽釜	1	
			陶磁器	5	
			硯	1	
7	大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器	2	展示・講義
			須恵器	15	資料
			土師器	14	
			瓦器	34	
			磁器	2	
			砥石	1	
			木製品	5	
			土錘	1	
			キセル	1	
			加工骨	1	
			展示パネル	16	
8	能勢町歴史資料室	大里遺跡	弥生土器	9	展示
			土師器	7	
			須恵器	5	
			石包丁	4	
			石斧	3	
			石鏃	7	
			石錘	1	
		上椿遺跡	須恵器	1	
		尾道遺跡	円面硯	1	
			須恵器	3	
			土師器	1	
		九ノ坪遺跡	黒色土器	2	
			土師器	3	
9	豊能町立郷土資料館	余野城遺跡	瓦器碗等	27	展示
			土師器	4	
			須恵器	3	
			砥石	1	
10	摂津市教育委員会	明和池遺跡	出土遺物	75箱	展示
11	吹田市立博物館	吉志部瓦窯	複弁八葉蓮華文軒丸瓦	1	展示

	貸出・展示先	遺跡名	資料名	点数	備考
			均整唐草文軒平瓦	1	
			緑釉陶器片	2	
			緑釉瓦片	6	
			窯道具	6	
12	藤井寺市立図書館展示室	三ツ塚古墳	小型修羅	1	展示
13	美原町立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器碗	27	展示
			瓦器皿	6	
			瓦質羽釜	1	
			土師器皿	1	
			鋳型片	29	
			鞴羽口片	18	
			鉄製刀子	1	
			青銅製品	2	
			鉄塊系遺物	7	
			砥石	7	
14	太子町立竹ノ内街道歴史資料館	伽山古墓	銀製帯金具（複製）	1式	展示
15	高石市教育委員会	大園古墳	埴輪片他	100箱	資料整理
16	池上曽根弥生学習館	池上曽根遺跡	炭化米	1式	展示
17	和泉市いずみの国歴史館	府中遺跡	弥生土器	10	展示
			蛸壺	2	
		坂本寺遺跡	軒丸瓦	5	
			軒平瓦	5	
		大園遺跡	有舌尖頭器	2	
			勾玉	3	
			紡錘車	1	
		池上曽根遺跡	弥生土器	15	
			木製品	24	
			大型石包丁	2	
			石斧	11	
			石槍	5	
			投弾	3	
			石錘	2	
			翡翠勾玉	1	
			管玉	5	
			ガラス片	3	
			骨角器	7	
			獣骨	1	
			鹿角	1	
			銅鏃	2	
			八稜鏡	1	
			文字瓦	1	
18	泉佐野市教育委員会	上町・上町東・大西・中開・植田池・日根野・長滝遺跡他	泉佐野市域における空港連絡道路・連絡鉄道事業に伴う発掘調査出土遺物	1,852箱	資料整理
19	サイエンス・サテライト	三軒屋遺跡	縄文土器	1	展示
		池上曽根遺跡	弥生土器	1	
20	吉志部神社	吉志部瓦窯	単弁十六葉蓮華文軒丸瓦	1	展示
			平瓦	1	
			緑釉瓦片	2	
			トチン	2	

資料の短期貸出

	依頼者	遺跡名	資料名	点数	用途
1	発掘された日本列島展実行委員会	シシヨツカ古墳	銀象嵌刀装具	2	展示
			金象嵌鞍金具片	1	
			鐘形杏葉	1	
			挂甲小札	一括	
			ガラス玉	一括	
			金糸・銀糸	一括	
			須恵器高坏	4	
			須恵器甕	2	

	依頼者	遺跡名	資料名	点数	用途
1			須恵器四耳壺	1	
			漆塗籠棺	18	
2	個人	高槻城跡	高槻焼関連遺物	61	講義資料
3	個人	陶邑窯跡群	須恵器	12	講義資料
4	奈良国立博物館	蔀屋北遺跡	移動式かまど	1	展示
			U字形板状土製品	3	
			韓式系土器	2	
5	個人	萱振1号墳	鰭付円筒埴輪	1	講義資料
		陶邑窯跡群	須恵器	1	
6	堺市埋蔵文化財センター	土塔	写真パネル	2	展示
7	美原町教育委員会	新堂廃寺	鴟尾	1	展示
			軒丸瓦	3	
			鬼瓦	2	
8	和泉市教育委員会	和泉国分寺跡	軒平瓦	1箱	展示
			軒平瓦	2	
			平瓦	7	
9	大阪府富田林土木事務所 (大阪府立狭山池ダム資料館)	鶴田池東遺跡	出土遺物	53	講義資料
		土師の里	出土遺物	18	
10	大阪府富田林土木事務所 (大阪府立狭山池ダム資料館)	鶴田池東遺跡	瓦・土器類	5	講義資料
11	国立歴史民俗博物館	木の本遺物	弥生前期～中期土器付着物他	27	資料採取・分析
12	藤井寺市郷土研究会	三ツ塚古墳	修羅出土状況写真パネル	3	展示
13	泉佐野市教育委員会	淡輪遺跡	縄文土器	53	展示
		〃	石製品	29	
		〃	石錘	8	
		〃	叩石	7	
		〃	台石	1	
		〃	磨製石斧	2	
		四ツ池遺跡	縄文土器	4	
		板原遺跡	縄文土器	1	
14	府立西成高校				
15	大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡	馬骨骨格標本	1	展示
			井戸出土土器	一括	
			溝出土土器	一括	
			U字形板状土製品	1	
			砥石・鉄滓・鉄鏃・紡錘車	一括	
			製塩土器	一括	
			軒丸瓦	3	
			軒平瓦	2	
			文字瓦	1	
			鬼瓦	1	
16	個人	陶邑窯跡群	須恵器	12	講義資料
17	(財) 大阪府文化財センター	瓜生堂遺跡	弥生式土器壷	1	展示
18	徳島県立博物館	錦織南遺跡	縄文土器浅鉢	1	展示
19	文化庁	陶邑窯跡群	須恵器	43	指定調査・展示
			窯道具類	3	
			瓦磚類	6	

掲載等許可資料

	依頼者	遺跡名	資料名	点数	備考
1	富田林土木事務所 (大阪府立狭山池ダム資料館)	大和川今池遺跡	木器出土状況写真	1	貸出・掲載
2	発掘された日本列島展実行委員会	シシヨツカ古墳	古墳出土遺物写真	9	貸出・掲載
3	個人	高槻城跡	高槻焼関連遺物集合写真	1	転載
			高槻焼関連遺物内窯・未製品など写真	1	
			高槻焼関連遺物匣鉢写真	1	
4	(株) 悠工房	三ツ塚古墳	修羅出土状況写真	1	貸出・掲載
5	(株) 冬陽社	三ツ塚古墳	修羅出土状況写真	1	貸出・掲載
6	(株) 小学館	堂山１号墳	出土須恵器集合写真	1	貸出・掲載
		萱振１号墳	古墳全景写真	1	〃

	依頼者	遺跡名	資料名	点数	備考
6		〃	北側埴輪列出土状況写真	1	〃
		萱振遺跡	A区弥生後期遺構面全景写真	1	〃
		安威遺跡	第6･7遺構面全景写真	1	〃
		大園遺跡	Ⅰ区東半部遺構面全景写真	1	〃
		萱振１号墳	北側周濠内埴輪出土状況写真	1	転載
7	東大阪市教育委員会	河内寺跡	調査状況写真などモノクロネガ	3	複製作製
			調査状況写真などモノクロ紙焼き	39	
8	個人	アカハゲ古墳	調査状況写真スライド	40	発表資料
9	個人	シシヨツカ・アカハゲ古墳	調査状況写真スライド	50	講座資料
10	個人	蔀屋北遺跡	調査状況写真スライド	25	講座資料
11	個人	蔀屋北遺跡	馬の全身骨格出土状況写真	1	貸出・掲載
12	豊中市総務部情報公開課	桜塚古墳群	調査状況写真なとガラス乾板	90	貸出・掲載
13	奈良国立博物館	蔀屋北遺跡	出土土器など写真	5	貸出・掲載
14	大阪府立近つ飛鳥博物館	シシヨツカ古墳	古墳群航空写真	1	貸出
			航空測量図	1	
			調査状況写真	1	
			調査実測図	1	
15	個人	吉志部瓦窯	軒丸瓦写真	1	貸出・掲載
			〃　拓影	1	
			〃　実測図	1	
16	岸和田市教育委員会	岸和田城跡	フイゴ羽口写真	1	貸出・掲載
			鉄滓写真	1	
			唐津焼・土師質土器集合写真	1	
17	大阪府富田林土木事務所 (大阪府立狭山池ダム資料館)	大坂城跡	物差し写真	3	貸出・掲載
			台鉋写真	1	
			ヤリガンナ写真	1	
			鋸写真	1	
18	美原町教育委員会	新堂廃寺	鴟尾写真	1	撮影・掲載
			軒丸瓦写真スライド	1	
			軒丸瓦写真	3	
			鬼瓦写真	2	
			軒丸瓦笵傷写真	6	
19	ＮＨＫ出版第一図書出版部	蔀屋北遺跡	馬全身骨格写真	1	貸出・掲載
			韓式系土器写真	1	掲載
			製塩土器写真	1	〃
			遺構面全景写真	1	〃
20	(株) 小学館	松井塚古墳	棺内土師器出土状況写真	1	貸出・掲載
		初田1号墳	石室床面写真	1	
21	宮城県河南町	陶邑窯跡群	ＴＫ73号窯跡全景写真	1	貸出・掲載
			ＴＫ73号・74号窯跡全景写真	1	
			初期須恵器一括写真	1	
			出土遺物写真	1	
22	大阪府立弥生文化博物館	萱振遺跡	韓式系土器写真	12	撮影・掲載
23	四条畷市立歴史民俗資料館	蔀屋北遺跡	馬全身骨格埋納土坑写真	1	貸出・掲載
			出土遺物写真	71	
24	(財) 大阪21世紀協会	蔀屋北遺跡	出土土器一括写真	1	貸出・掲載
			木製輪鐙写真	1	
			馬の全身骨格写真フィルム	1	
			遺跡全景写真	1	
			船材転用井戸写真	1	
25	個人	シシヨツカ古墳	銀象嵌太刀柄頭写真	1	転載
			羨道西側埋甕高坏発見状況写真	1	
			石室全景写真	1	
26	四条畷市立歴史民俗資料館	蔀屋北遺跡	A区SE494 井戸枠・遺物出土状況写真	1	掲載
			A区SK940 馬全身骨格出土状況写真	1	
			E区土坑1 遺物出土状況写真	1	
			E区土坑1 出土遺物写真	1	
			H区溝11 木製輪鐙出土状況写真	1	
			E区土坑1 出土製塩土器一括写真	1	

	依頼者	遺跡名	資料名	点数	備考
27	(財) 大阪府文化財センター	シシヨツカ古墳	漆塗籠棺写真	1	貸出・掲載
28	岸和田市教育委員会	岸和田城跡	遺構掘削状況写真	1	貸出・掲載
29	大阪の部落史委員会	蔀屋北遺跡	A区SK940 馬全身骨格出土状況写真	1	貸出・掲載
		〃	A区SK1345 馬上下顎骨出土状況写真	1	
		〃	A区SK655 馬上下顎骨出土状況写真	1	
		西ノ辻遺跡	57-4区井戸15 馬頭蓋骨出土状況写真	1	
		〃	58-2区 (南) 中世自然河川2下層馬・牛骨出土状況写真	1	
		〃	58-5区 土坑1全景写真	1	
30	東京国立博物館	陶邑窯跡群	TK73号窯跡出土須恵器集合写真	1	掲載
31	泉佐野市教育委員会	淡輪遺跡	土器出土状況写真	1	貸出・掲載
			土器出土状況写真	1	
			遺構全景他写真フィルム	5	
			出土遺物写真	4	
32	四条畷市教育委員会	蔀屋北遺物	A区SE494 井戸枠・遺物出土状況写真	1	貸出・掲載
			A区SE940 馬全身骨格出土状況写真	1	
33	城陽市教育委員会	三ツ塚古墳	修羅出土状況写真	1	転載
34	朝日新聞社出版本部書籍編集部	新堂廃寺	鴟尾写真	1	貸出・掲載
		シシヨツカ古墳	銀象嵌円頭大刀柄頭・鞘口金具写真	1	
35	藤井寺市教育委員会	秦廃寺	軒丸瓦写真	2	貸出・掲載
		衣縫廃寺	軒丸瓦写真	3	
36	ＰＡＮＡ通信社	シシヨツカ古墳	ガラス小玉一括写真	1	貸出・掲載
37	藤井寺市教育委員会	津堂城山古墳	石棺出土状況写真	1	転載
38	上毛新聞社出版局	大阪府立泉北考古資料館	外観写真	1	貸出・掲載
39	個人	陶邑窯跡群	TK304号窯跡出土円面硯実測図	1	掲載
40	京都新聞社洛西編集局	西の辻遺跡	石臼と茶臼写真	1	転載
41	(株) 日本通信教育連盟	三ツ塚古墳	修羅出土状況写真	1	貸出・掲載
		陶邑窯跡群	初期須恵器一括写真	1	
		〃	ＴＧ61号窯移築復原状況写真	1	
42	神戸市立博物館	シシヨツカ古墳	須恵器一括写真	1	貸出・掲載
			ガラス小玉一括写真	1	
45	(株) 日本通信教育連盟	陶邑窯跡群	ＴＧ61号窯移築復原状況写真	1	撮影・掲載
		〃	須恵器の溶着塊写真	1	
		三ツ塚古墳	修羅出土状況写真	1	
46	(株) 雄山閣	萱振遺跡	1号墳復元写真	1	貸出・掲載
47	個人	御旅山古墳	埴輪実測図	9	掲載
48	徳島県立博物館	錦織南遺跡	縄文土器浅鉢写真	1	貸出・掲載
49	個人	紫金山古墳	墳丘測量図	1	貸出・掲載
			レーダー探査委託報告	1	
50	個人	御旅山古墳	埴輪実測図	10	掲載
51	(財) 堺都市政策研究所	余部遺跡	梵鐘片と鉄素材写真	1	転載
52	栗東歴史民俗博物館	原山4号古墓	出土須恵器写真	4	貸出・掲載
		〃	筒形土製品写真	3	
		〃	鴟尾写真	1	
		原山2号古墓	出土須恵器写真	1	
		原山3号古墓	出土須恵器写真	2	
		野々井遺跡	弾琴人物埴輪写真	1	
53	(株) 吉川弘文館	アカハゲ古墳	古墳全景写真	1	貸出・掲載
		ツカマリ古墳	古墳全景写真	1	
54	帝塚山学院大学	大阪府立泉北考古資料館	外観写真	1	貸出・掲載
55	(財) 大阪府文化財センター	蔀屋北遺跡	SK940 馬全身骨格出土状況写真	1	貸出・掲載
56	奈良県立橿原考古学研究所付属博物館	寛弘寺遺跡	小銅鐸写真	1	貸出・掲載

	依頼者	遺跡名	資料名	点数	備考
57	(株) 学生社	蕃上山古墳	巫女形埴輪写真	1	貸出・掲載
58	個人	田井中遺跡	石包丁実測図	1	掲載
		木の本遺跡	石包丁実測図	4	
59	堺市南支所	檜尾原3号墳	横穴式石室検出状況	1	転載
60	個人	紫金山古墳	「大阪府の文化財」記載の同古墳記述	1	転載
61	(株) 塙書房	東郷地区遺跡群	建物遺構図	1	転載
		〃	東郷地区航空写真	1	
		野間遺跡	D・J区遺構面全景写真	1	
			同地区屋敷跡写真	1	
62	国立歴史民俗博物館	木の本遺跡	炭素年代測定分析結果	3	掲載
63	個人	加納・平石古墳群	調査状況スライド	60	発表資料
64	府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡	SK940 馬全身骨格出土状況写真フイルム	1	貸出・掲載
65	個人	加納・平石古墳群	調査状況スライド	40	発表資料

資料閲覧

	所属	遺跡名	資料内容	目的
1	千早赤阪村教育委員会	柿ヶ坪・尾平・西板持遺跡・寛弘寺遺跡	土師器ほか一括出土遺物	学術研究
2	立命館大学	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
3	奈良国立博物館	蔀屋北遺跡	移動式カマド推定U字形土製品	展示計画
4	大阪大学	喜志遺跡	石器	学術研究
5	立命館大学	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
6	大阪大学	喜志遺跡	石器	学術研究
7	大阪府文化財調査センター	蔀屋北遺跡	移動式カマド推定U字形土製品	学術研究
8	四條畷市教育委員会	蔀屋北遺跡	移動式カマド推定U字形土製品ほか	学術研究
9	立命館大学	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
10	四條畷市教育委員会	蔀屋北遺跡	鉄器・鍛冶滓・韓式系土器	展示計画
11	泉佐野市教育委員会	淡輪遺跡	縄紋土器・石器	展示計画
12	泉佐野市教育委員会	淡輪遺跡	土器・石器	展示計画
		四つ池遺跡		
		三軒屋遺跡		
		板原遺跡		
13	大阪歴史博物館	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
14	大谷女子大学	土師の里遺跡	埴輪	学術研究
15	大阪歴史博物館	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
16	立命館大学	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
17	立命館大学	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
18	立命館大学	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
19	京都大学	小島東遺跡	製塩土器	学術研究
20	立命館大学	大園遺跡	土師器	学術研究
21	松江北高校	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
22	早稲田大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
23	立命館大学	蔀屋北遺跡	土師器・須恵器	学術研究
24	立命館大学	蔀屋北遺跡	土師器・須恵器	学術研究
25	大阪大学	崇禅寺遺跡	土師器	学術研究
26	大阪大学	崇禅寺遺跡	土師器	学術研究
27	近畿大学	木の本遺跡	弥生土器	学術研究
28	泉佐野市教育委員会	長峯丘陵の遺跡群	瓦	報告書
29	山形県埋蔵文化財センター	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
30	大阪大学	萱振遺跡	土師器	学術研究
31	京都大学	土師の里遺跡	有舌尖頭器	学術研究
		大園遺跡		
		喜志西遺跡		
		倉垣遺跡		
		寛弘寺遺跡		
32	立命館大学	安威遺跡	土師器	学術研究
33	立命館大学	安威遺跡	土師器	学術研究
34	早稲田大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
35	同志社大学歴史資料館	陶器遺跡・平尾遺跡	硯・須恵器	学術研究
36	京都大学	蔀屋北遺跡	製塩土器	学術研究

	所属	遺跡名	資料内容	目的
37	京都大学	蔀屋北遺跡	製塩土器	学術研究
38	京都大学	小島東遺跡	製塩土器	学術研究
39	京都大学	小島東遺跡	製塩土器	学術研究
40	奈良市教育委員会	お旅山古墳	埴輪	学術研究
41	大阪市文化財協会	木の本遺跡	鉄滓状遺物	学術研究
42	栗東市文化体育振興事業団	東山遺跡	骨壷・陶棺・埴輪	展示計画
		原山古墓		
		野の井古墳群		
43	アナトリア文明博物館	大阪府遺跡群	埴輪・弥生土器・古墳石棺	学術研究
44	奈良女子大学	田井中遺跡	石器	学術研究
45	大阪大学	東山遺跡	石器	学術研究
46	立命館大学	大坂城跡	陶器製擬製弾	学術研究
47	門真西高校	雁屋遺跡	手焙り形土器	学術研究
48	奈良文化財研究所	萱振遺跡	土師器	学術研究
49	奈良文化財研究所	萱振遺跡	土師器	学術研究
50	大阪大学	新庄遺跡・中野北遺跡	石杵	学術研究
51	奈良文化財研究所	馬子塚古墳・総持寺遺跡	管玉	学術研究
52	大分市教育委員会	蔀屋北遺跡・小島東遺跡	製塩土器	報告書
53	堺市立埋蔵文化財センター	勝山南遺跡	軒瓦	学術研究
54	京都大学	お旅山古墳	埴輪	学術研究
55	鹿児島国際大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究

平成16年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

【文化財保護課】

課長
参事

- 保存管理グループ
- 指定文化財グループ

【文化財調査事務所】

調査管理グループ	資料総括	主査	橋本高明	センター指導・調整、事業量調査等
調査管理補佐	主査　大野　薫	主査	大崎喜久雄	積算及び竣工等
瀬川　健		技師	竹原伸次	資料貸出等、写真・保存処理等
		技師	林日佐子	遺物整理、泉北考古資料館協力等
		技師	藤田道子	遺物整理等
調査第一グループ	調査第一総括	主査	小林義孝	発掘調査・調整・指導（中・北河内）
調査第一補佐	主査　岩崎二郎	主査	一瀬和夫	発掘調査・調整・指導（豊能・三島）
中井貞夫		技師	宮崎泰史	発掘調査
		技師	奥　和之	発掘調査
		技師	岩瀬　透	発掘調査
		技師	横田　明	発掘調査
		技師	井西貴子	発掘調査
		＊技師	藤田道子	発掘調査
		＊技師	岡田　賢	発掘調査
		嘱託	堀江門也	発掘調査
調査第二グループ	調査第二総括	主査	西口陽一	発掘調査・調整・指導（南河内）
調査第二補佐	主査　広瀬雅信	主査	藤澤真依	発掘調査・調整・指導（泉州）
髙島　徹		技師	亀島重則	発掘調査
		技師	桝本　哲	発掘調査
		技師	阿部幸一	発掘調査
		技師	三木　弘	発掘調査
		技師	西川寿勝	発掘調査
		技師	杉本清美	発掘調査
		＊技師	関　真一	発掘調査

（註）＊藤田は７月に調査第一グループから調査管理グループに異動
＊岡田は７月に新規採用、調査第一グループに配属
＊関は７月に新規採用、調査第二グループに配属

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報9
発行日　2005年11月30日
発　行　大阪府教育委員会
〒540－8571
大阪市中央区大手前2丁目
☎06－6941－0351
編　集　大阪府教育委員会文化財調査事務所
〒590－0105
堺市竹城台3丁21－4
☎072－291－7401
印　刷　株式会社　近畿印刷センター
柏原市本郷5丁目6番25号
☎0729－72－5918